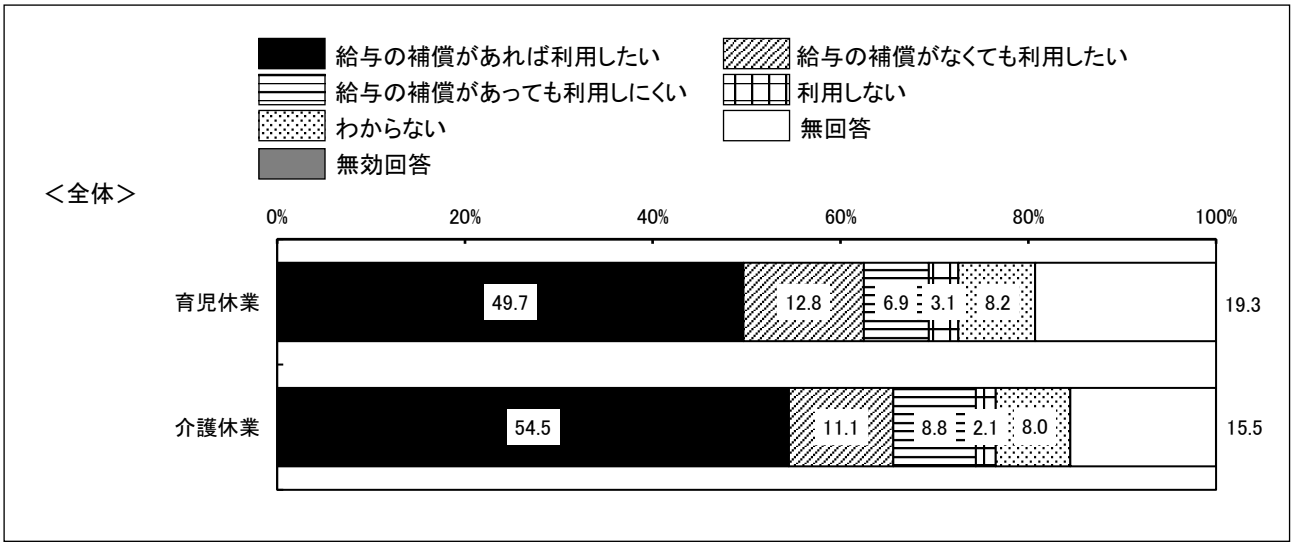
4 家庭生活（子育て、介護等）

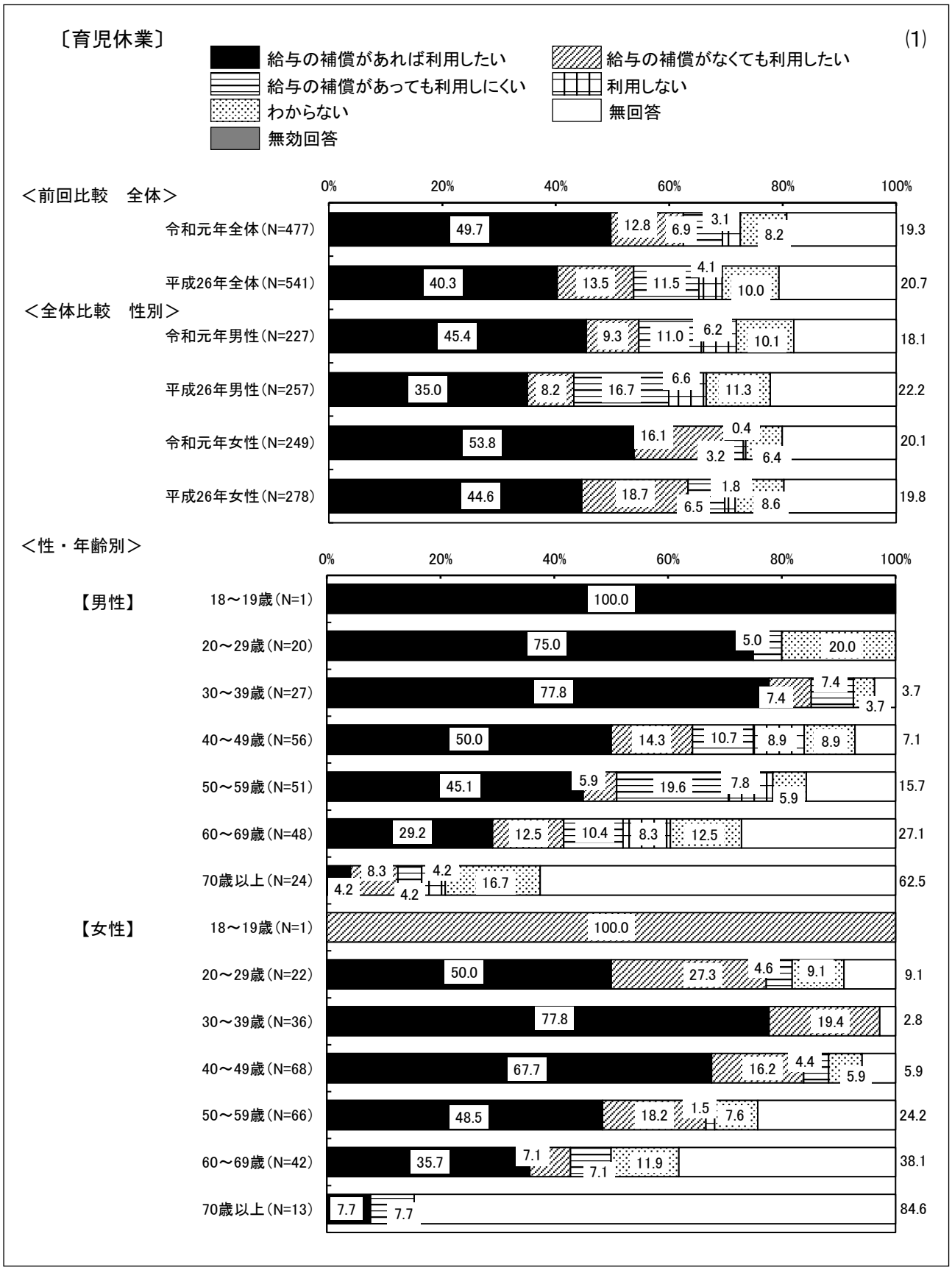
（1） 育児休業・介護休業の利用について

問 20 「就労中の方」におたずねします。

家族で育児や介護をする必要が生じた場合に、あなた自身が「育児休業」「介護休業」を取得したいと思いますか。（(1)(2)について○は 1 つずつ）



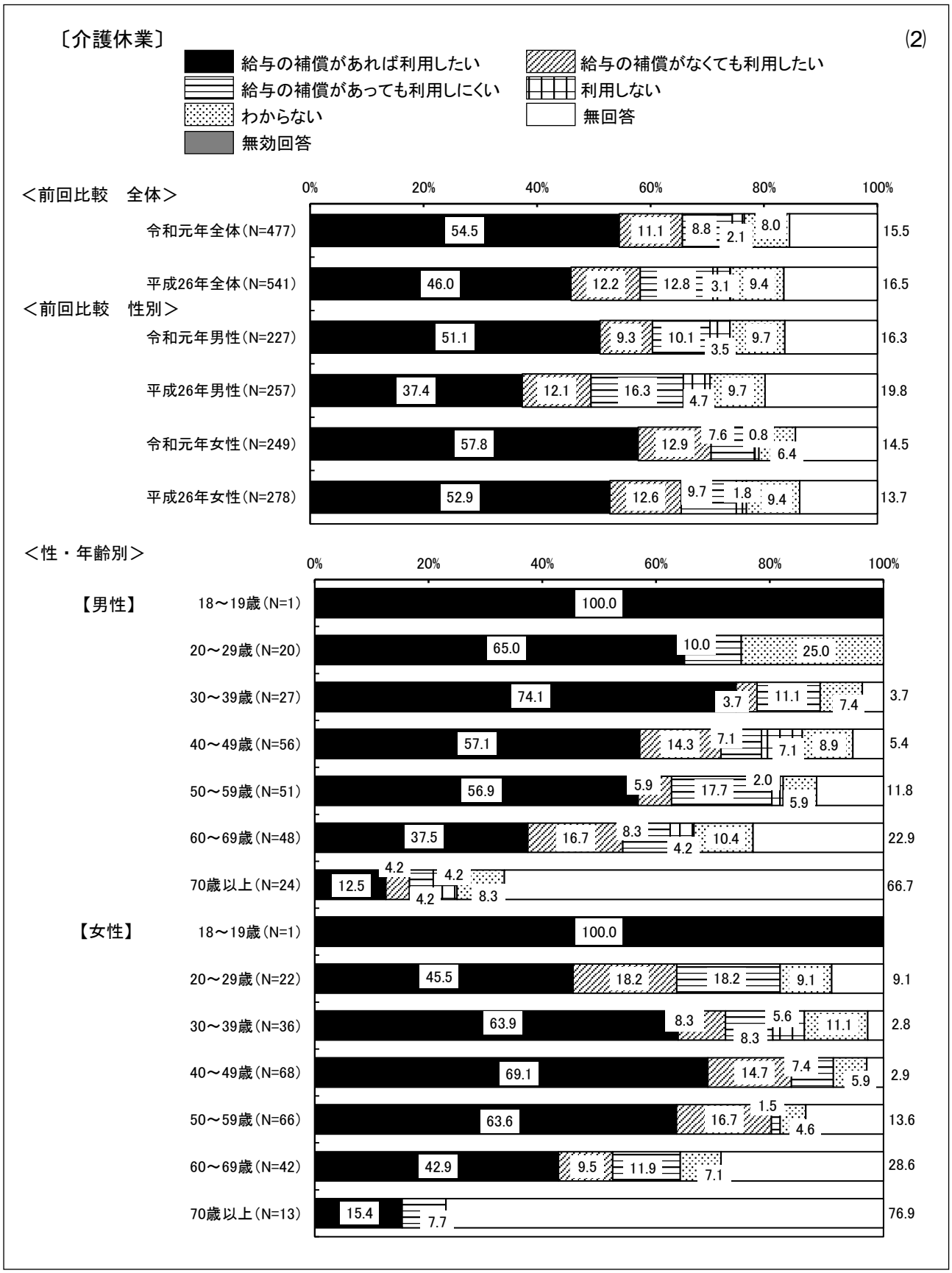
“育児休業”と“介護休業”のどちらも「給与の補償があれば利用したい」が最も高い。また、「給与の補償があれば利用したい」の割合が“介護休業”は“育児休業”より 4.8 ポイント高い。



前回調査と比べると、「給与の補償がなくても利用したい」の割合が 0.7 ポイント低くなっている。

性別にみると、「給与の補償がなくても利用したい」の割合が女性では 16.1％で女性の方が 6.8 ポイント高く、「給与の補償があっても利用しにくい」の割合が男性では 11.0％で男性の方が 7.8 ポイント高い。

性・年齢別にみると、18～19 歳をのぞいて、「給与の補償があれば利用したい」が 20 歳代男性・30 歳代男女・40 歳代女性では 60％以上である。また、20 歳代では「給与の補償があれば利用したい」の割合の男女差が大きい。



前回調査と比べると、「給与の補償がなくても利用したい」の割合が 1.1 ポイント低くなっている。

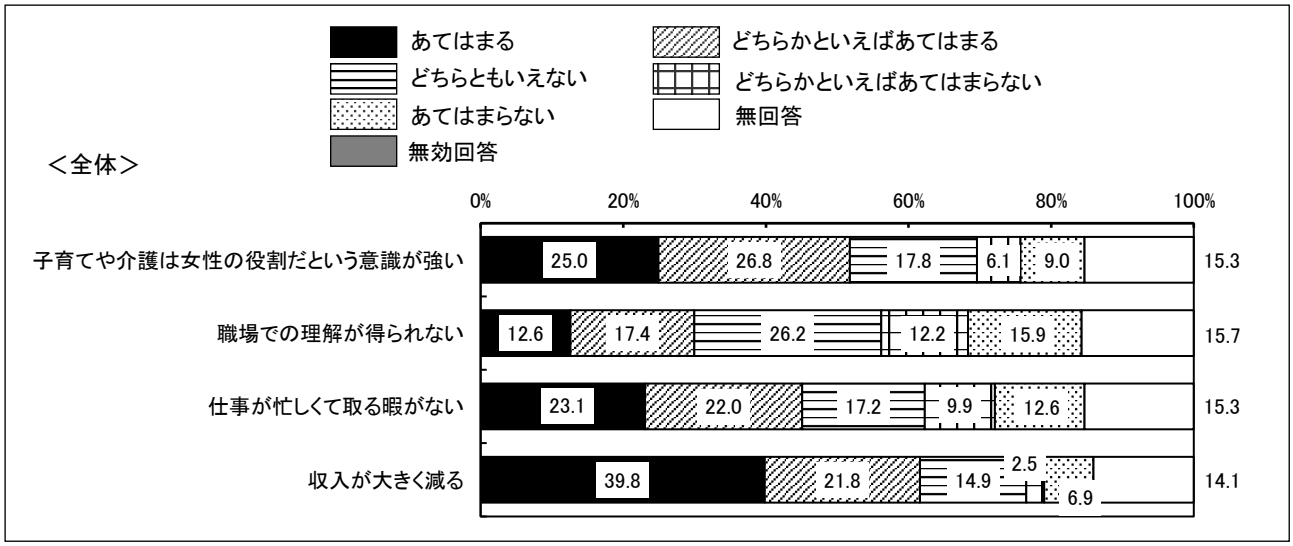
性別にみると、「給与の補償があれば利用したい」の割合が女性では 57.8%で女性の方が 6.7 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「給与の補償があれば利用したい」が 50 歳代以下男女では 50%以上である。また、20～40 歳代では「給与の補償があれば利用したい」の割合の男女差が大きい。

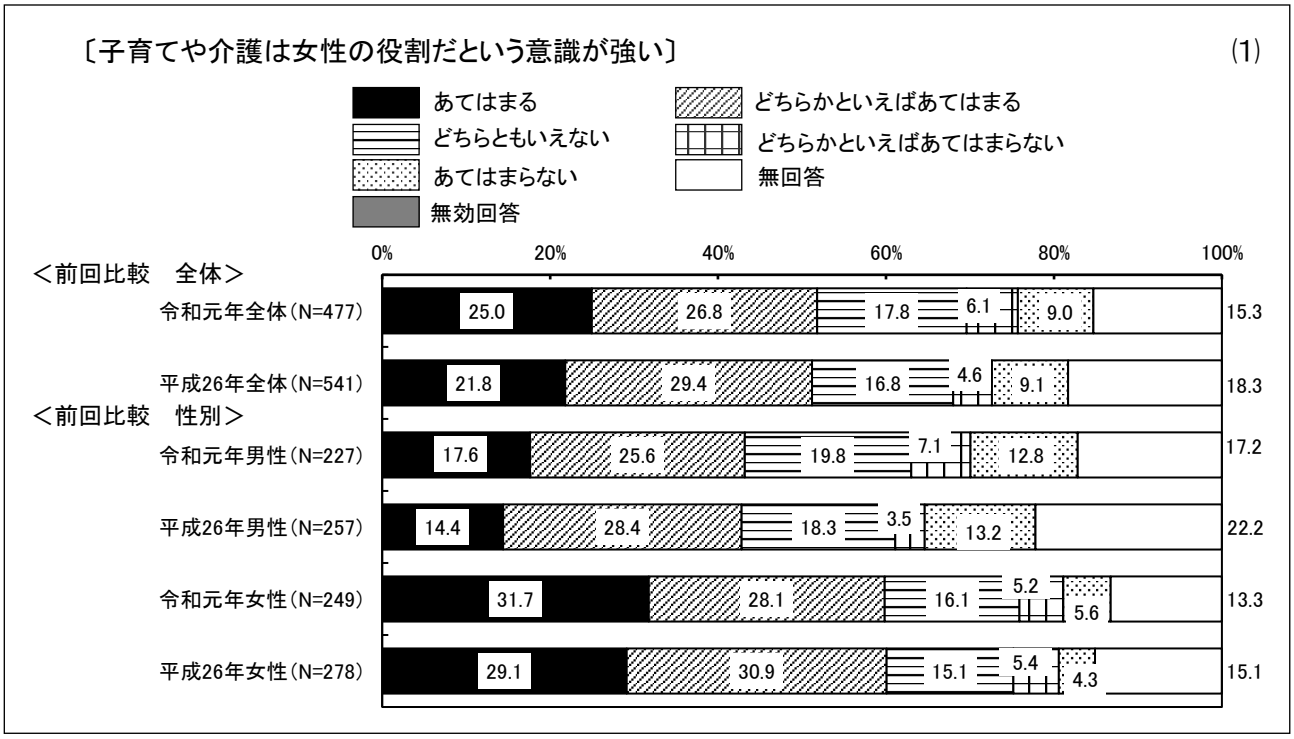
（2） 育児休業・介護休業の利用の問題点

問 21 「就労中の方」におたずねします。

「育児休業」「介護休業」を利用する場合の問題点について、現在の職場ではどのように思いますか。（(1)～(4)について○は 1 つずつ）



4 つの項目のうち、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が最も高いのは“収入が大きく減る”（61.6％）で、次が“子育てや介護は女性の役割だという意識が強い”（51.8％）で、“仕事が忙しくて取る暇がない”（45.1％）である。

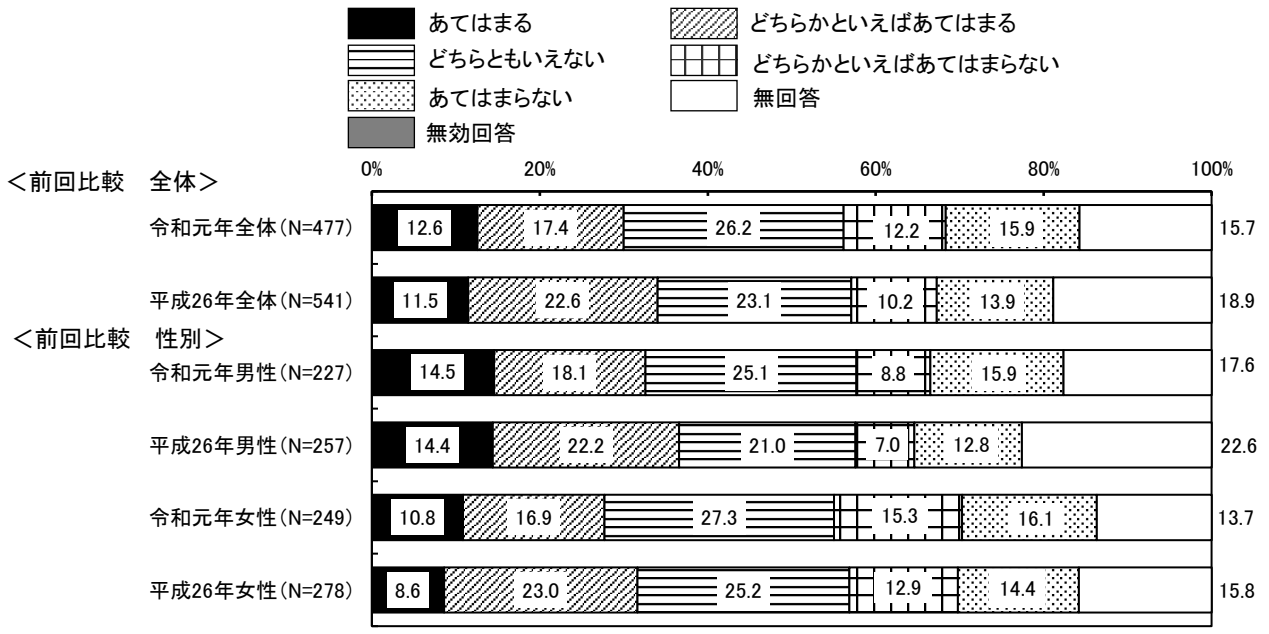


全体では「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合（51.8％）の方が、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合（15.1％）を 36.7 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 0.6 ポイント高くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が女性では 59.8％で女性の方が 16.6 ポイント高い。

〔職場での理解が得られない〕 (2)

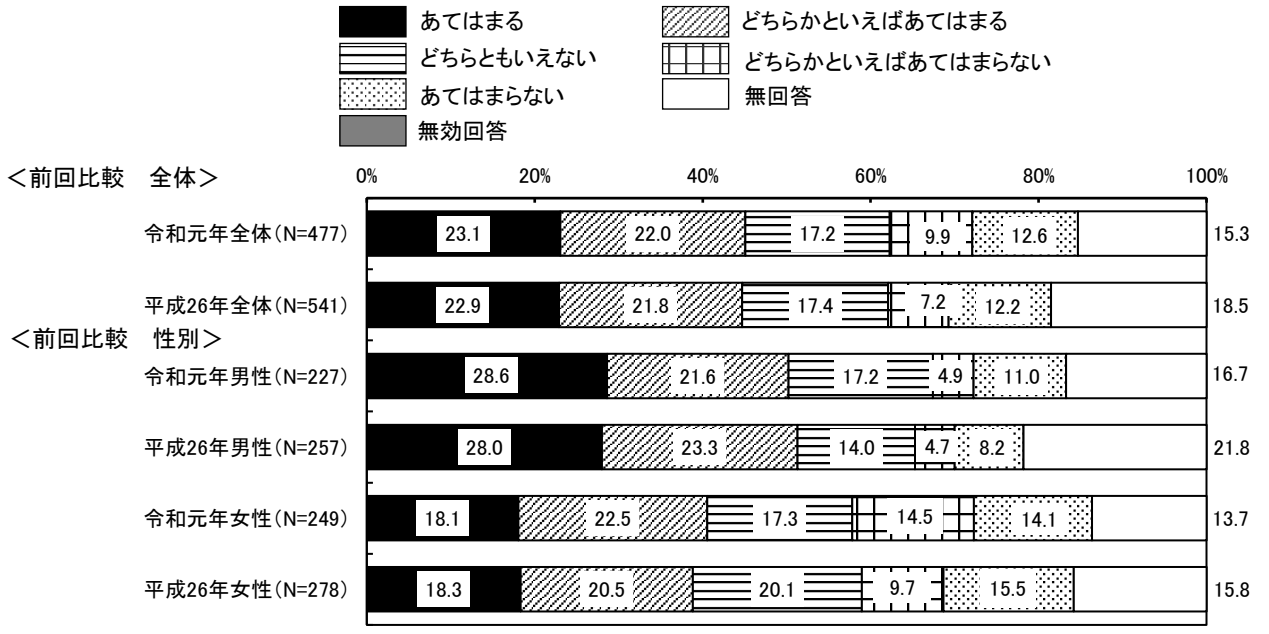


全体では「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合(30.0%)の方が、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合(28.1%)を 1.9 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 4.1 ポイント低くなっている。

性別にみると、「「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が男性では 32.6%で男性の方が 4.9 ポイント高い。

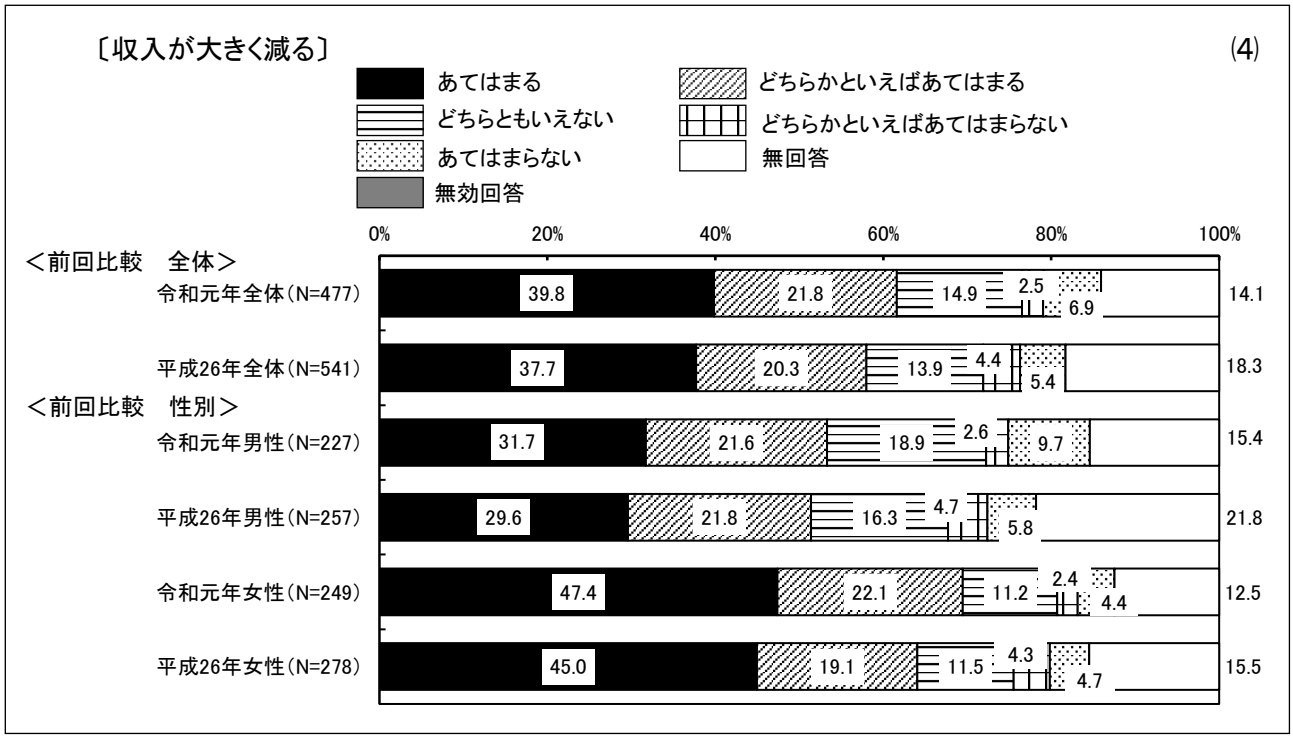
〔仕事が忙しくて取る暇がない〕 (3)



全体では「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合(45.1%)の方が、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合(22.5%)を 22.6 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 0.4 ポイント低くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が男性では 50.2%で男性の方が 9.6 ポイント高い。



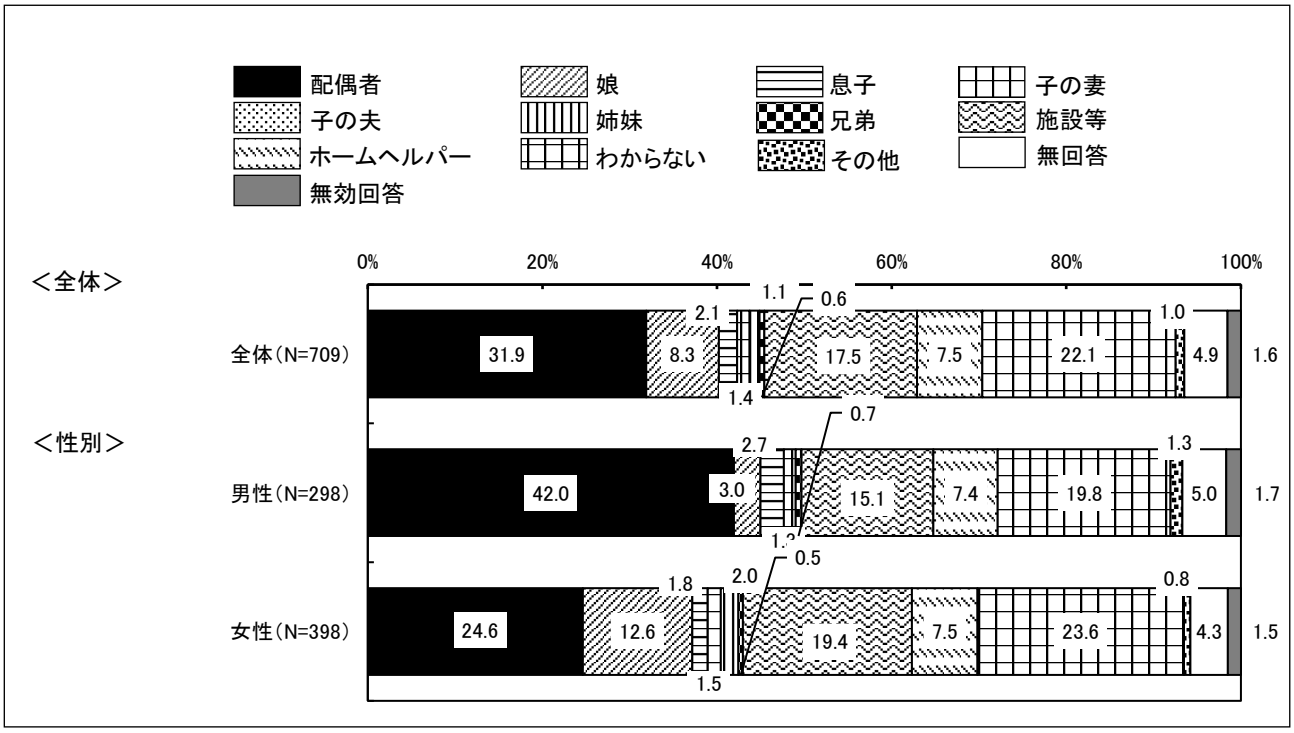
全体では「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合（61.6%）の方が、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合（9.4%）を 52.2 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 3.6 ポイント高くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が女性では 69.5%で女性の方が 16.2 ポイント高い。

（3）介護される立場になった場合の介護者

問 22　あなたが介護される立場になったとき誰に介護してもらうことになると思いますか。（○は 1 つ）

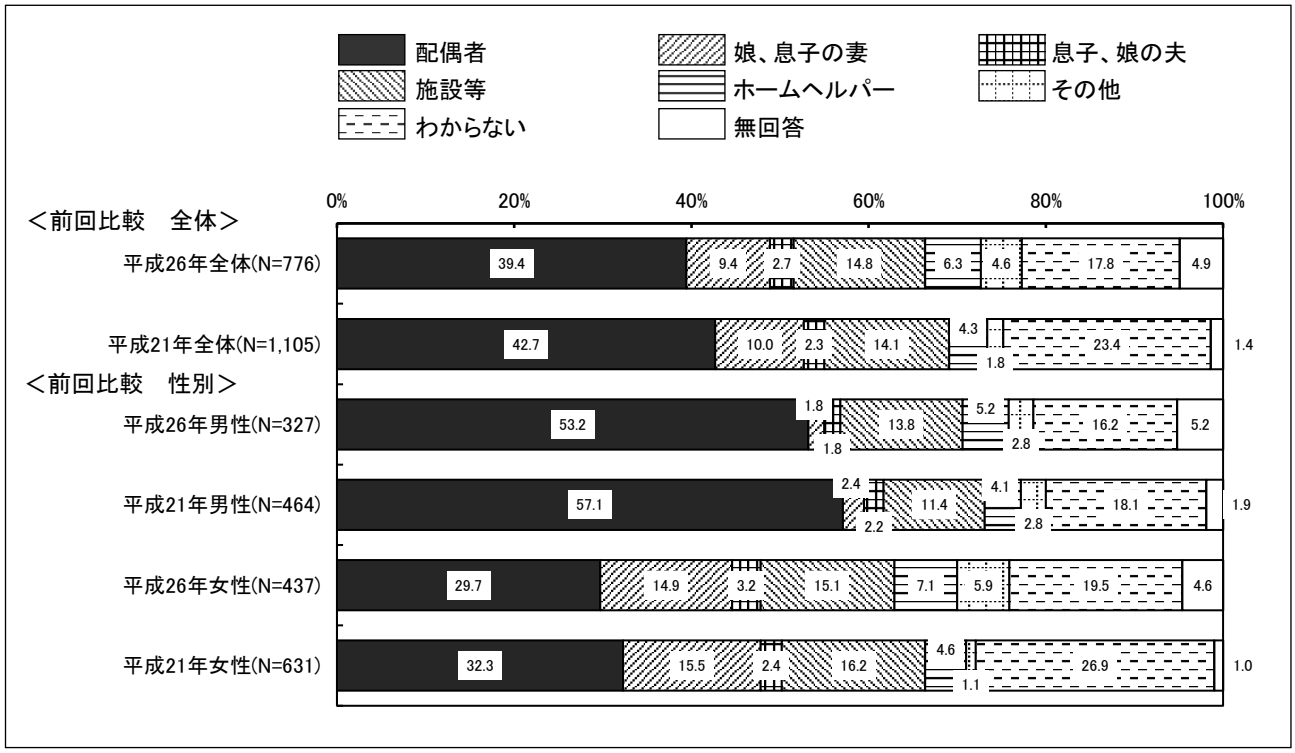


全体では「配偶者」が 31.9%と最も高く、次に「わからない」が 22.1%で、「施設等」が 17.5%となっている。

性別にみると、「配偶者」の割合が男性では 42.0%で男性の方が 17.4 ポイント高い。

※参考資料（26 年調査）

あなたが介護される立場になったとき誰に介護してもらうことになると思いますか。（○は１つ）



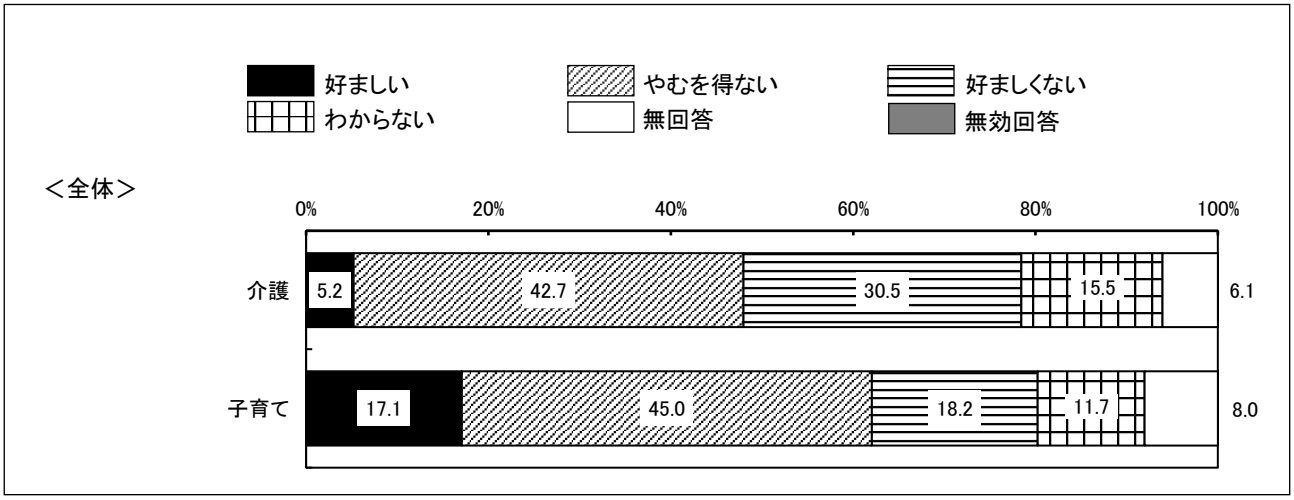
全体では「配偶者」が 39.4％で最も高く、次に「わからない」が 17.8％で、「施設等」が 14.8％である。

前回調査と比べると、「配偶者」の割合が 3.3 ポイント低くなっている。

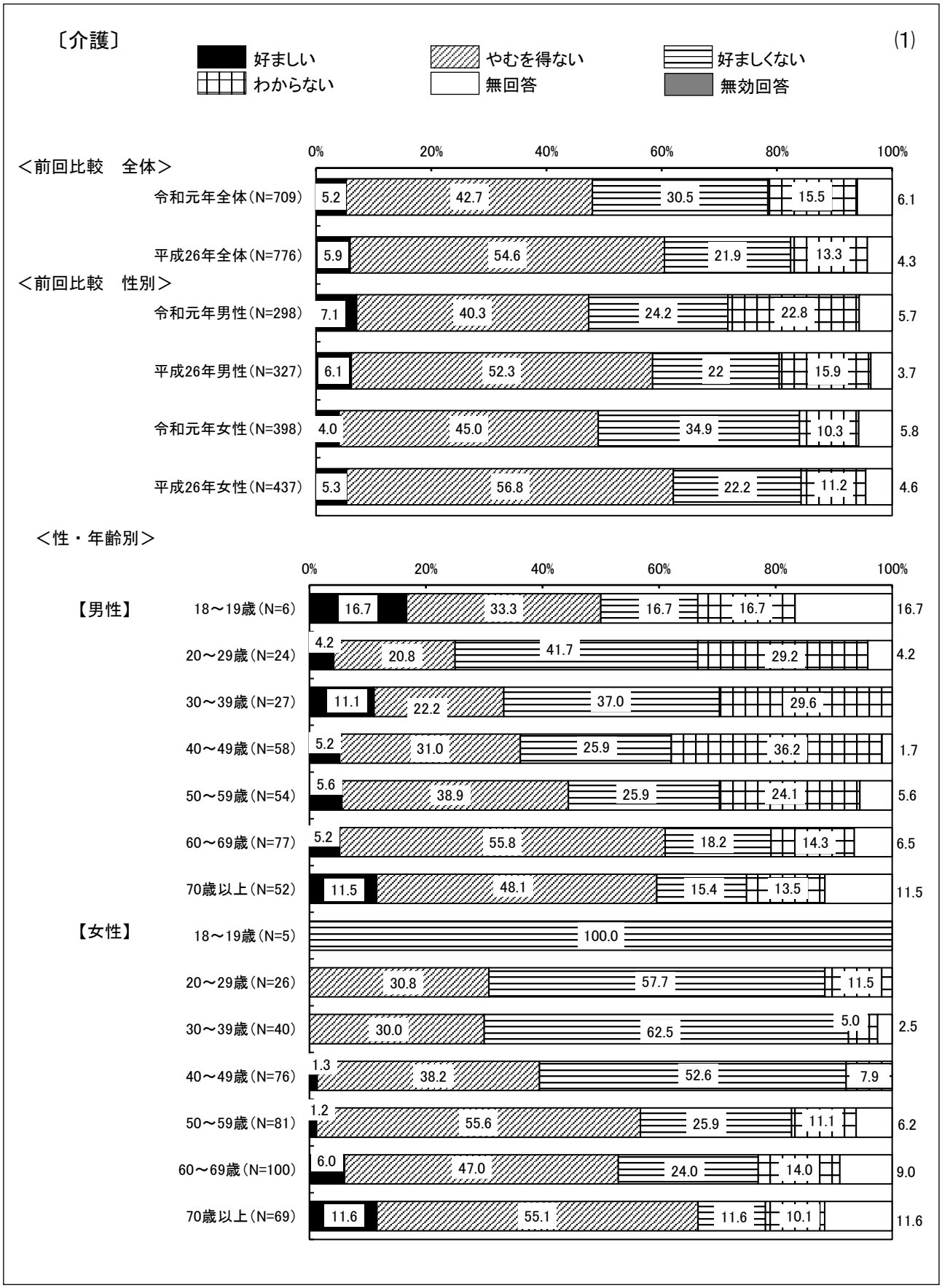
性別にみると、「配偶者」の割合が男性では 53.2％で男性の方が 23.5 ポイント高い。

（4）介護・子育ての負担について

問 23　家族の介護、子育てを主に女性が担うことについてどのように思いますか。
（(1)(2)について○は 1 つずつ）



“介護”と“子育て”のどちらも「やむを得ない」が 4 割以上である。次に、どちらも「好ましくない」の割合が高い。

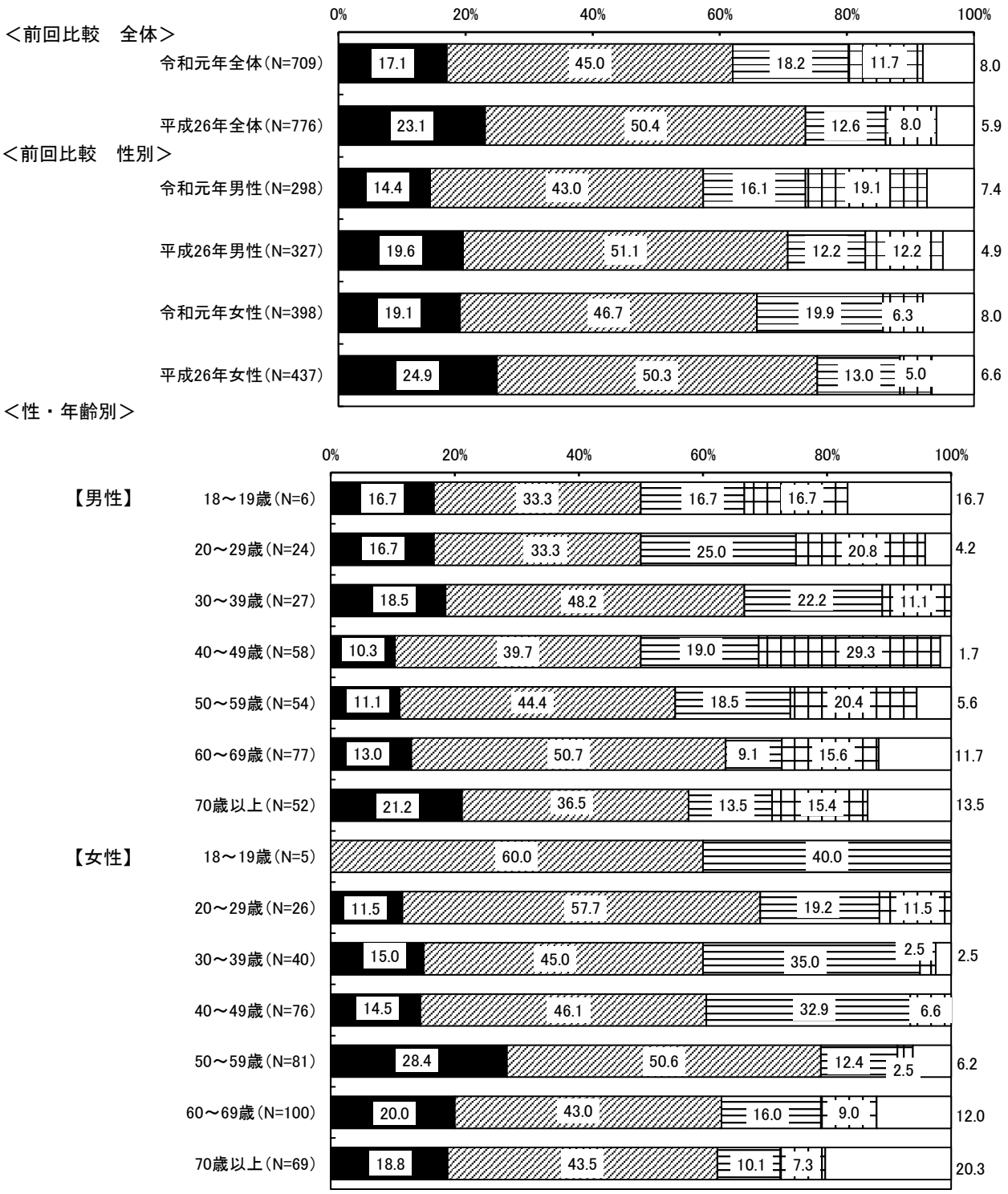


前回調査と比べると、「好ましくない」の割合が 8.6 ポイント高くなり、「やむを得ない」の割合が 11.9 ポイント低くなっている。

性別にみると、「やむを得ない」の割合が女性では 45.0%で女性の方が 4.7 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「やむを得ない」が 50 歳代女性・60 歳代以上男女で 4 割以上である。

〔子育て〕 (2)



前回調査と比べると、「好ましくない」の割合が 5.6 ポイント高くなり、「好ましい」の割合が 6.0 ポイント低くなっている。

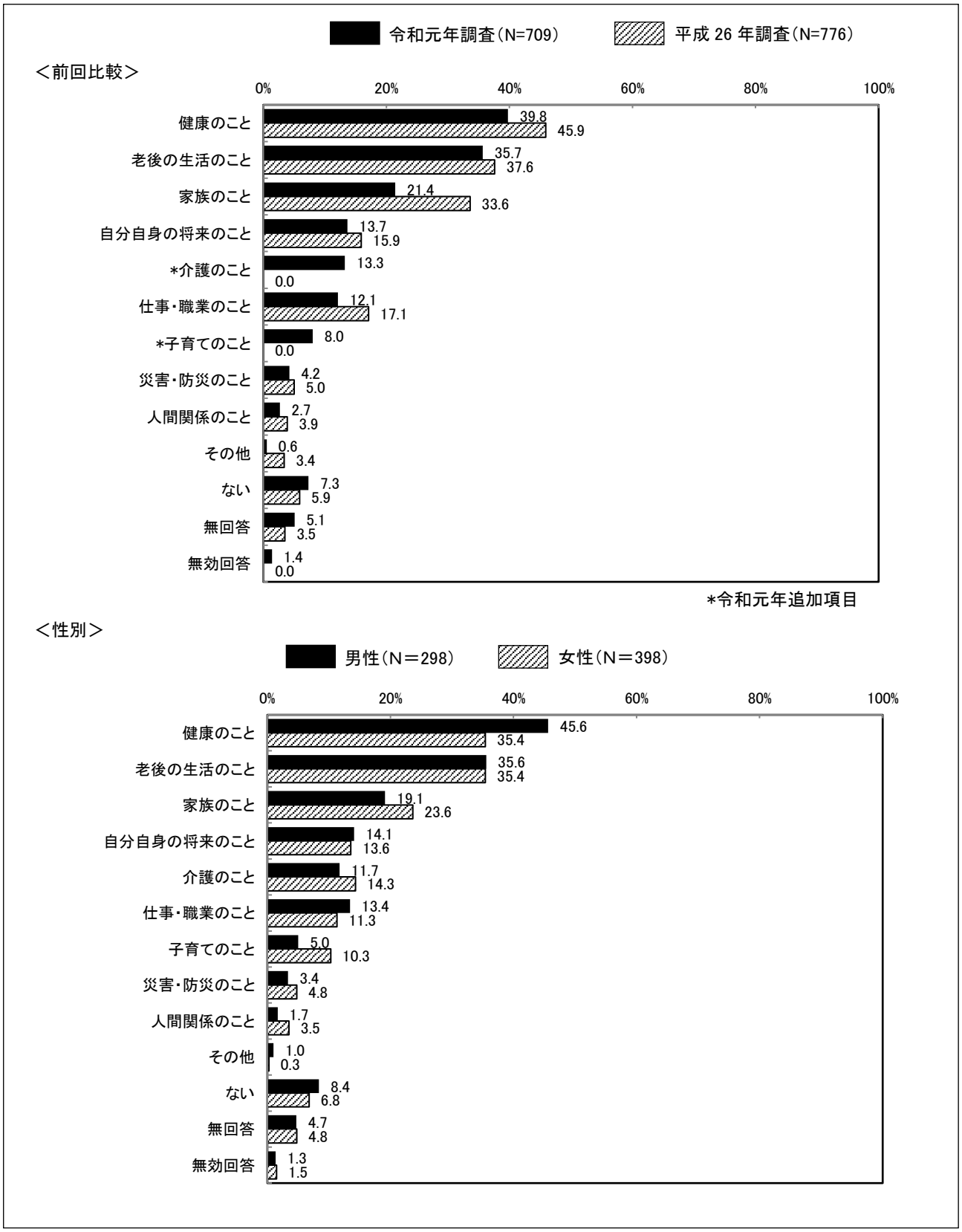
性別にみると、「好ましい」の割合が女性では 19.1％で、男性では 14.4％と、女性の方が 4.7 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「やむを得ない」が 18～19 歳女性・20 歳代女性・50 歳代女性・60 歳代男性で 5 割以上である。

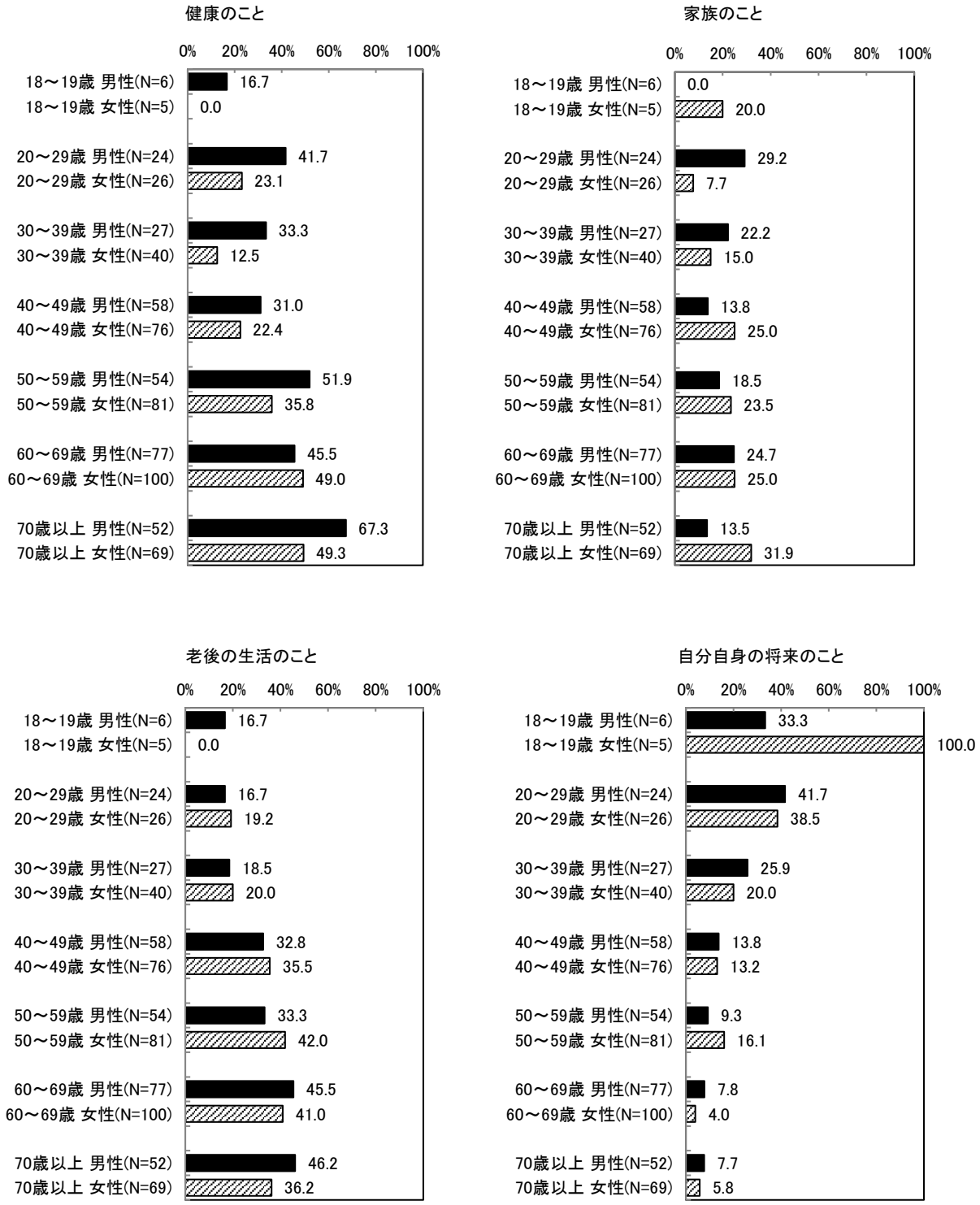
（5） 生きがいと不安

① 不安・気がかりなこと

問 24-1 あなた自身が今、不安なこと、いつも気にかかっていることがありますか。
（○は 2 つ以内）



＜性・年齢別＞



全体では「健康のこと」が 39.8%と最も高く、次に「老後の生活のこと」が 35.7%で、「家族のこと」が 21.4%となっている。

前回調査と比べると、「ない」が 1.4 ポイント高くなり、「家族のこと」が 12.2 ポイント低くなっている。

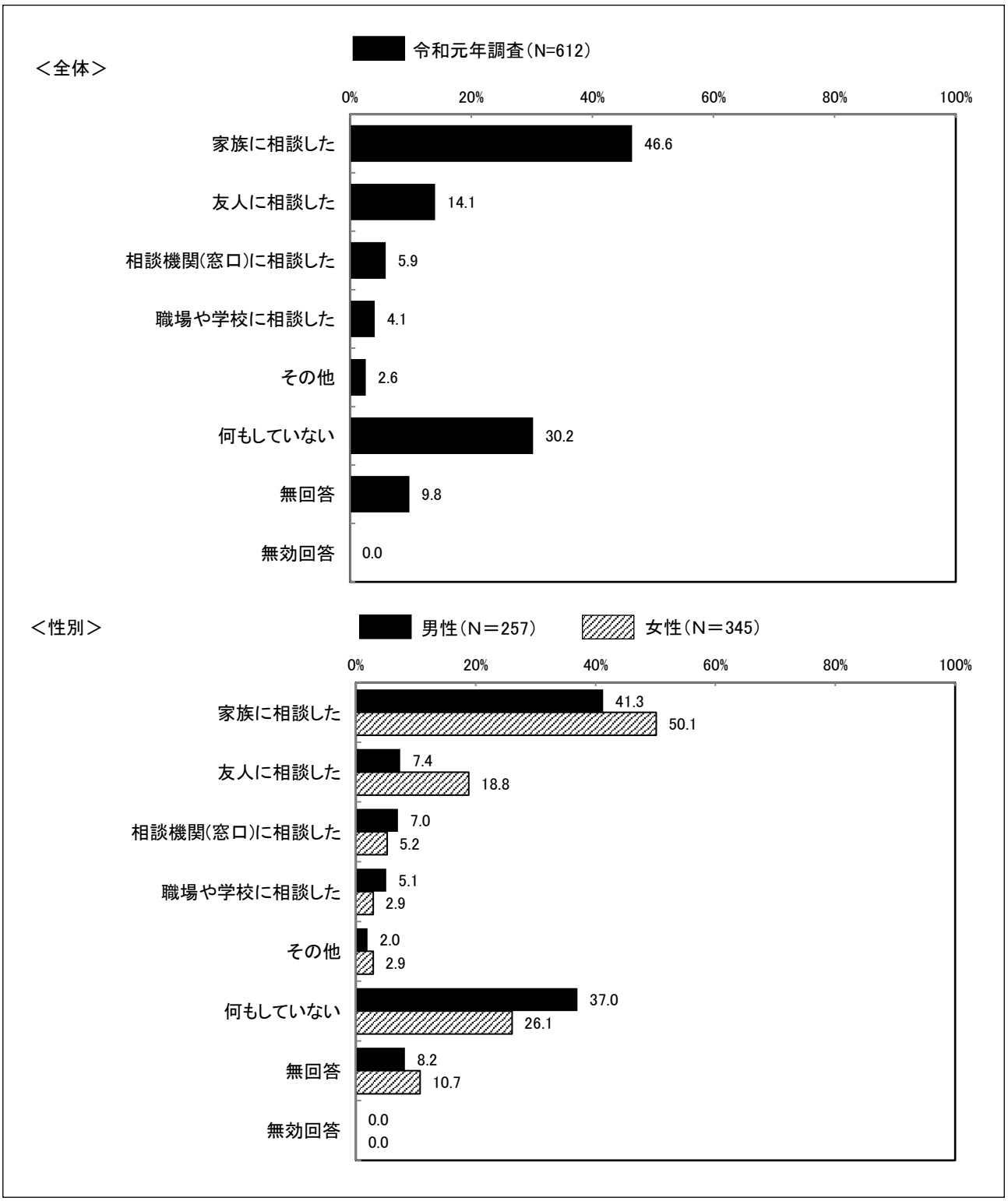
性別にみると、「家族のこと」の割合が女性では 23.6%で女性の方が 4.5 ポイント高い。

主な項目について性・年齢別にみると、「健康のこと」「老後の生活のこと」の割合が 60 歳代以上男女で高く、「家族のこと」の割合は 70 歳以上女性で高く、「自分自身の将来のこと」の割合は 18～19 歳・20 歳代男女で高い。

② 不安・気がかりについて具体的にしたこと

問 24-2　問 24-1で「1～9」とお答えの方におたずねします。

そのことについて具体的にしたことはありますか。（○は 2 つ以内）



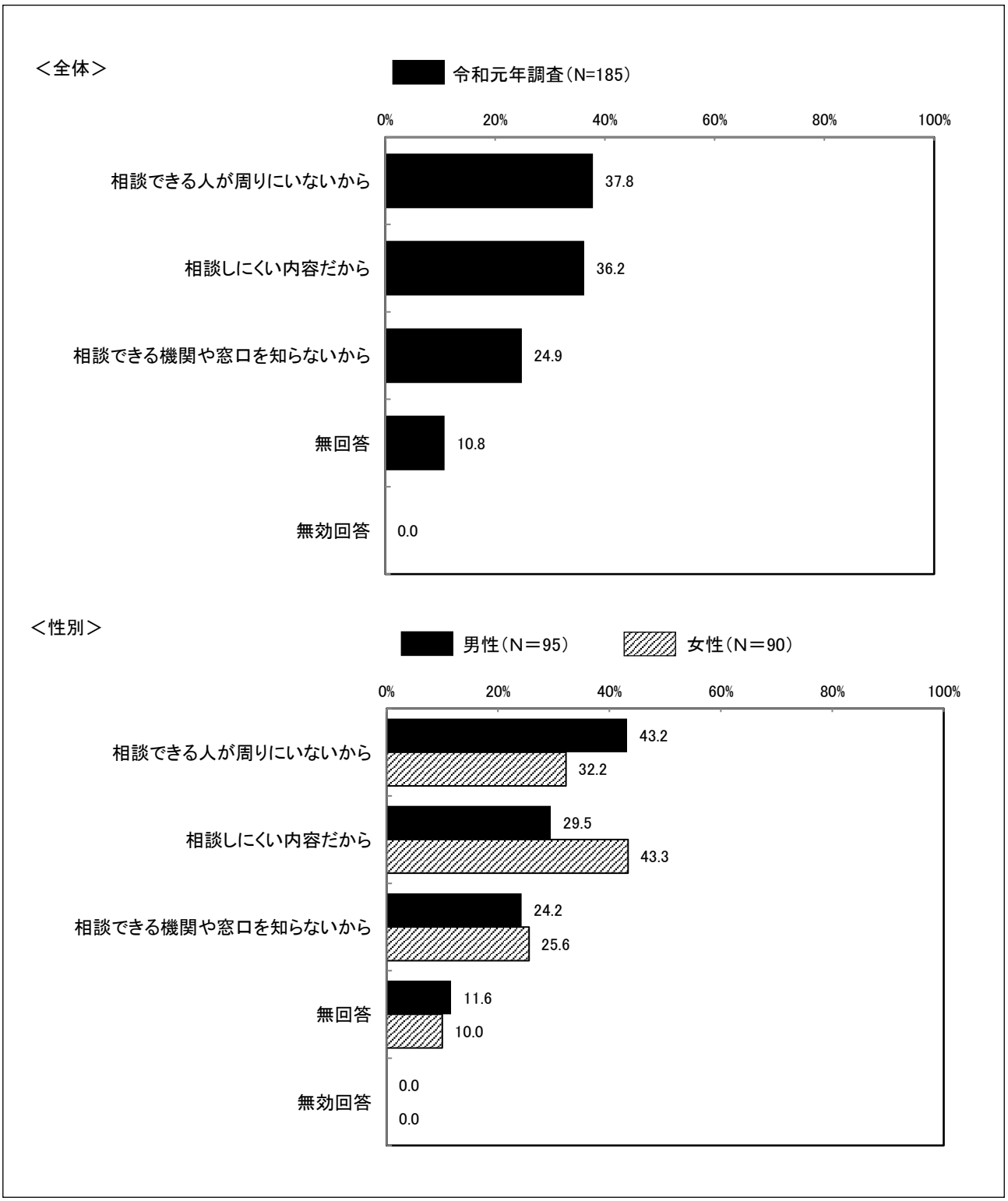
全体では「家族に相談した」が 46.6％と最も高く、次に「何もしていない」が 30.2％で、「友人に相談した」が 14.1％となっている。

性別にみると、「友人に相談した」の割合が女性では 18.8％で女性の方が 11.4 ポイント高い。

③ 不安・気がかりについて何もしていない理由

問 24-3 問 24-2 で「5 何もしていないと」とお答えの方におたずねします。

何もしていない理由は何ですか（○は 2 つ以内）

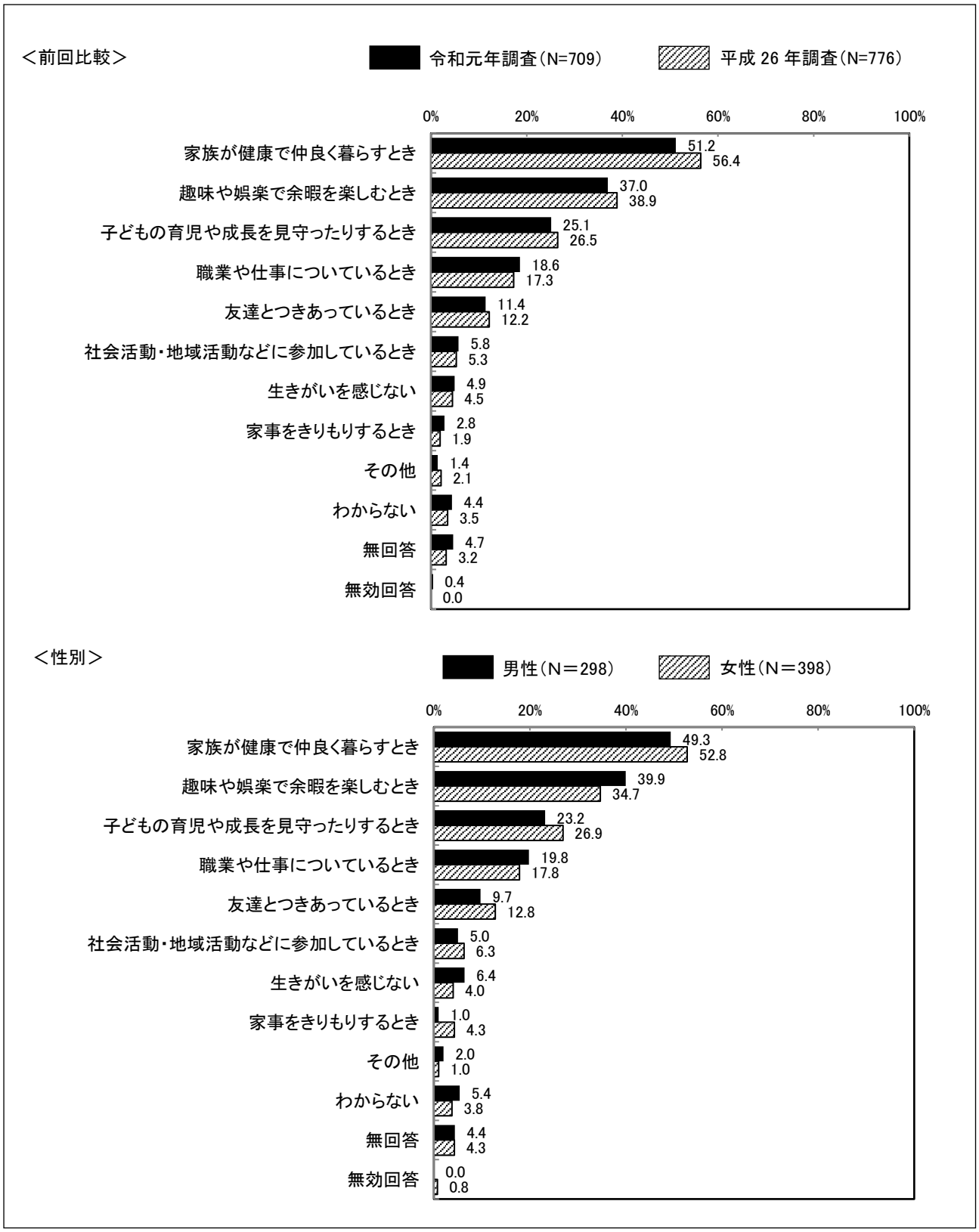


全体では「相談できる人が周りにいないから」が 37.8%で最も高く、次に「相談しにくい内容だから」が 36.2%で、「相談できる機関や窓口を知らないから」が 24.9%となっている。

性別にみると、「相談しにくい内容だから」の割合が女性では 43.3%で女性の方が 13.8 ポイント高い。

④ 生きがいを感じるとき

問 25 あなた自身が生きがいを感じるのはどんなときですか。（○は 2 つ以内）



全体では「家族が健康で仲良く暮らすとき」が 51.2％と最も高く、次に「趣味や娯楽で余暇を楽しむとき」が 37.0％で、「子どもの育児や成長を見守ったりするとき」が 25.1％となっている。

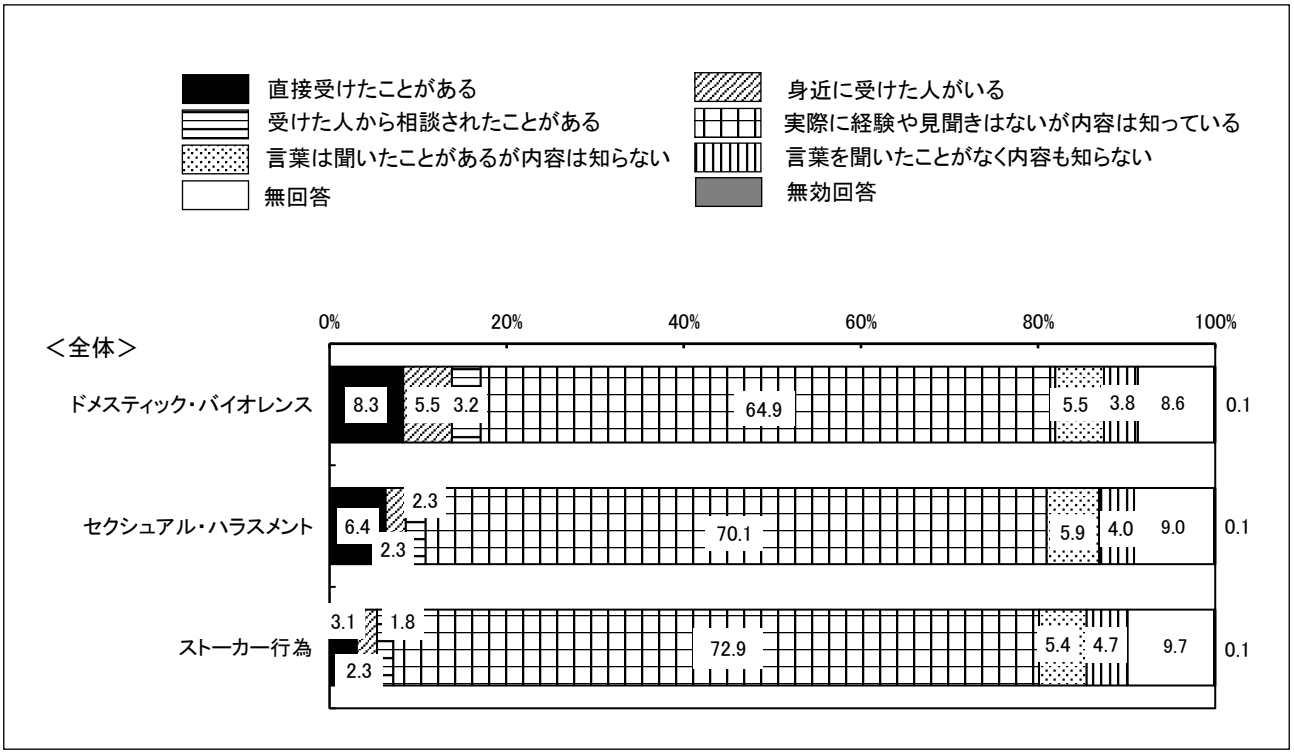
前回調査と比べると、「生きがいを感じない」の割合が 0.4 ポイント高くなっている。

性別にみると、「子どもの育児や成長を見守ったりするとき」の割合が女性では 26.9％で女性の方が 3.7 ポイント高く、「趣味や娯楽で余暇を楽しむとき」の割合が男性では 39.9％で男性の方が 5.2 ポイント高い。

5 配偶者、恋人などからの暴力

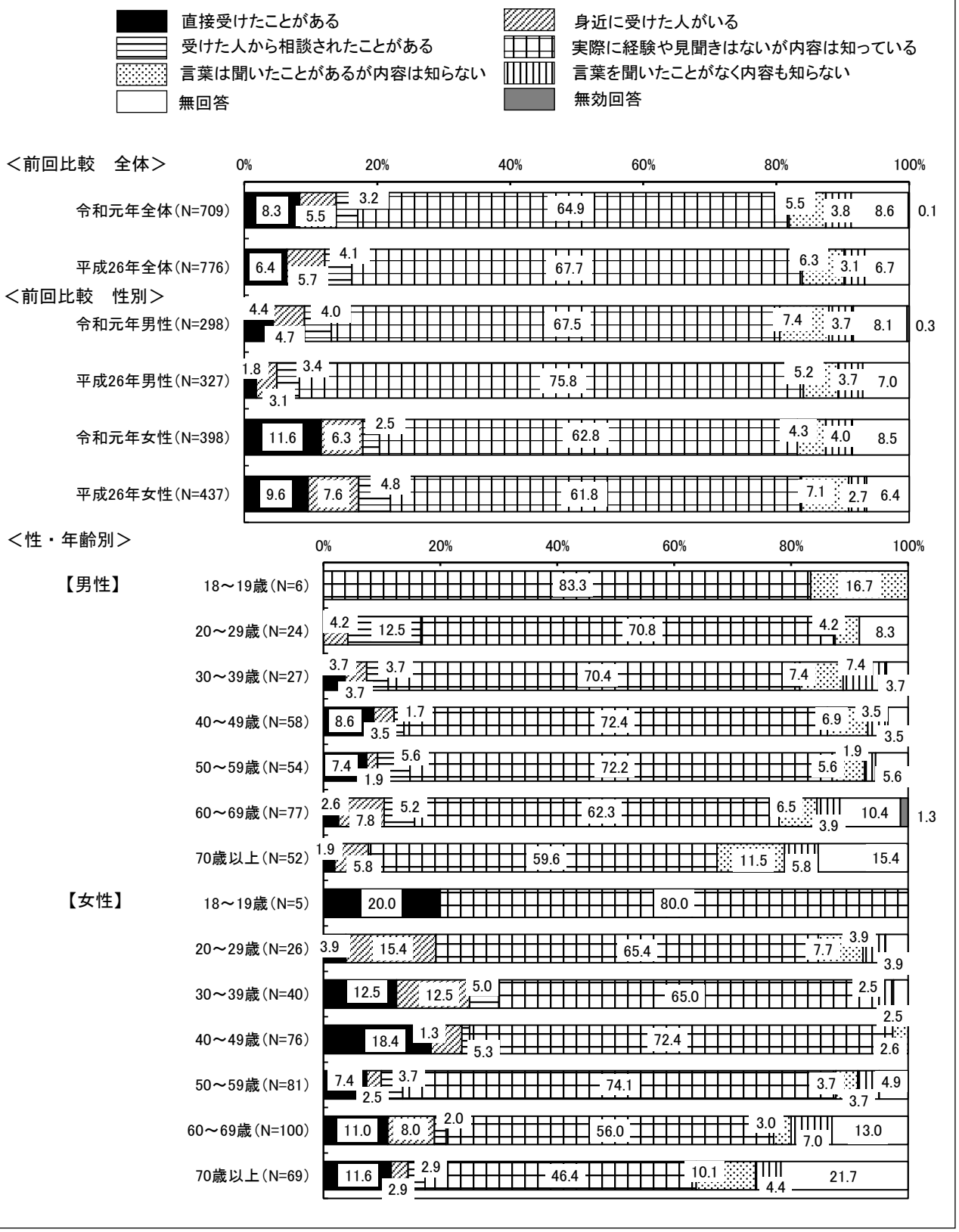
（1） 主に女性に対する暴力についての経験・認知

問 26-1 「ドメスティック・バイオレンス（DV）」「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」「ストーカー行為」について、経験したり、見聞きしたことがありますか。（(1)～(3)について○は１つずつ）



“ドメスティック・バイオレンス”“セクシュアル・ハラスメント”“ストーカー行為”ともに「実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている」が６割以上で最も高い。

〔ドメスティック・バイオレンス〕



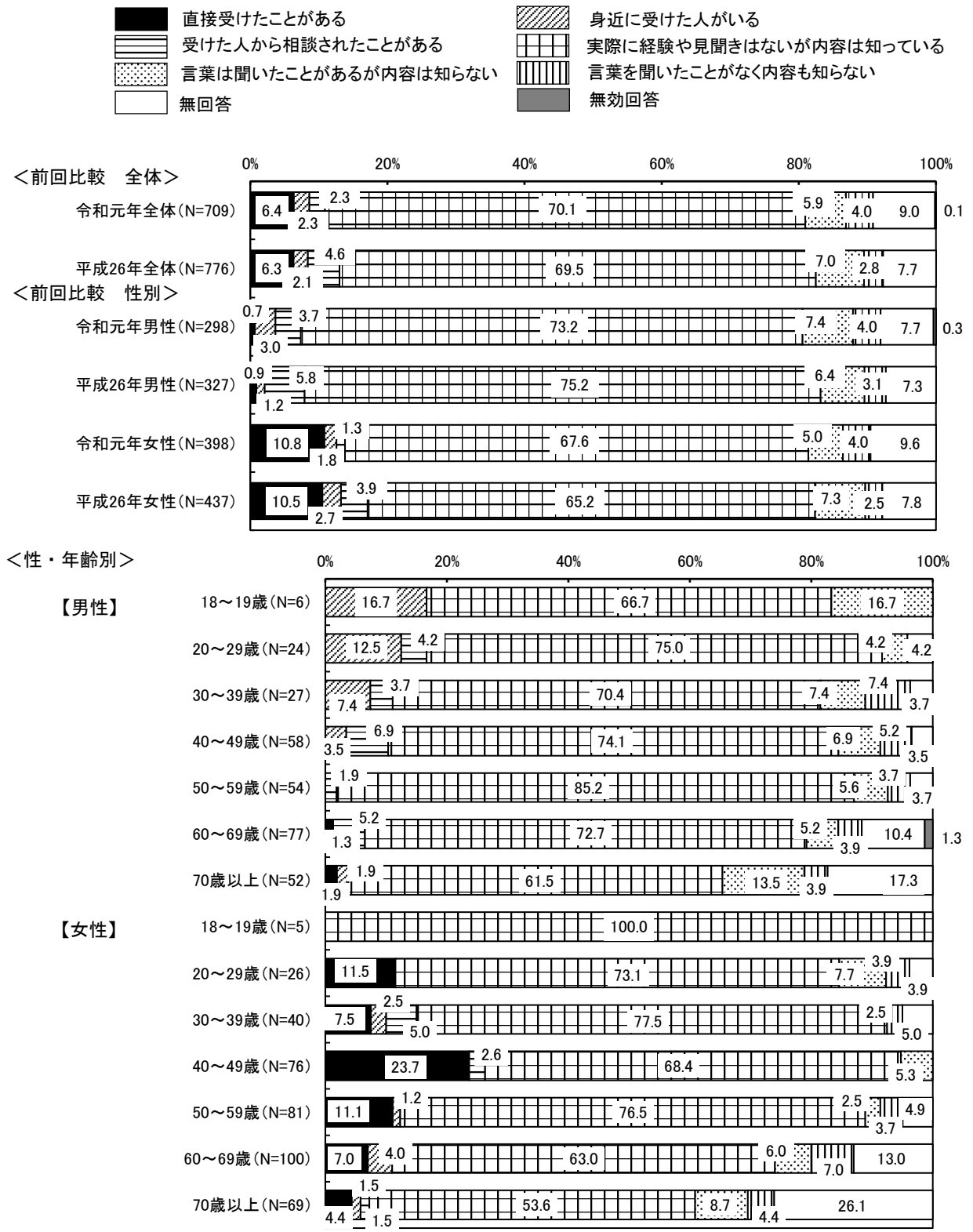
全体では「実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている」が 64.9%と最も高い。「直接受けたことがある」「身近に受けた人がいる」「受けた人から相談されたことがある」を合計した17.0%が直接または身近な出来事として経験しているといえる。

前回調査と比べると、「言葉を聞いたことがなく内容も知らない」の割合が 0.7 ポイント高くなり、「実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている」が 2.8 ポイント低くなっている。

性別にみると、「直接受けたことがある」「身近に受けた人がいる」「受けた人から相談されたことがある」の合計が女性では 20.4%で、男性では 13.1%と、女性の方が 7.3 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「直接受けたことがある」の割合では、18～19 歳女性が 20.0%と最も高く、次に 40 歳代女性が 18.4%で、30 歳代女性が 12.5%となっている。

〔セクシュアル・ハラスメント〕 (2)



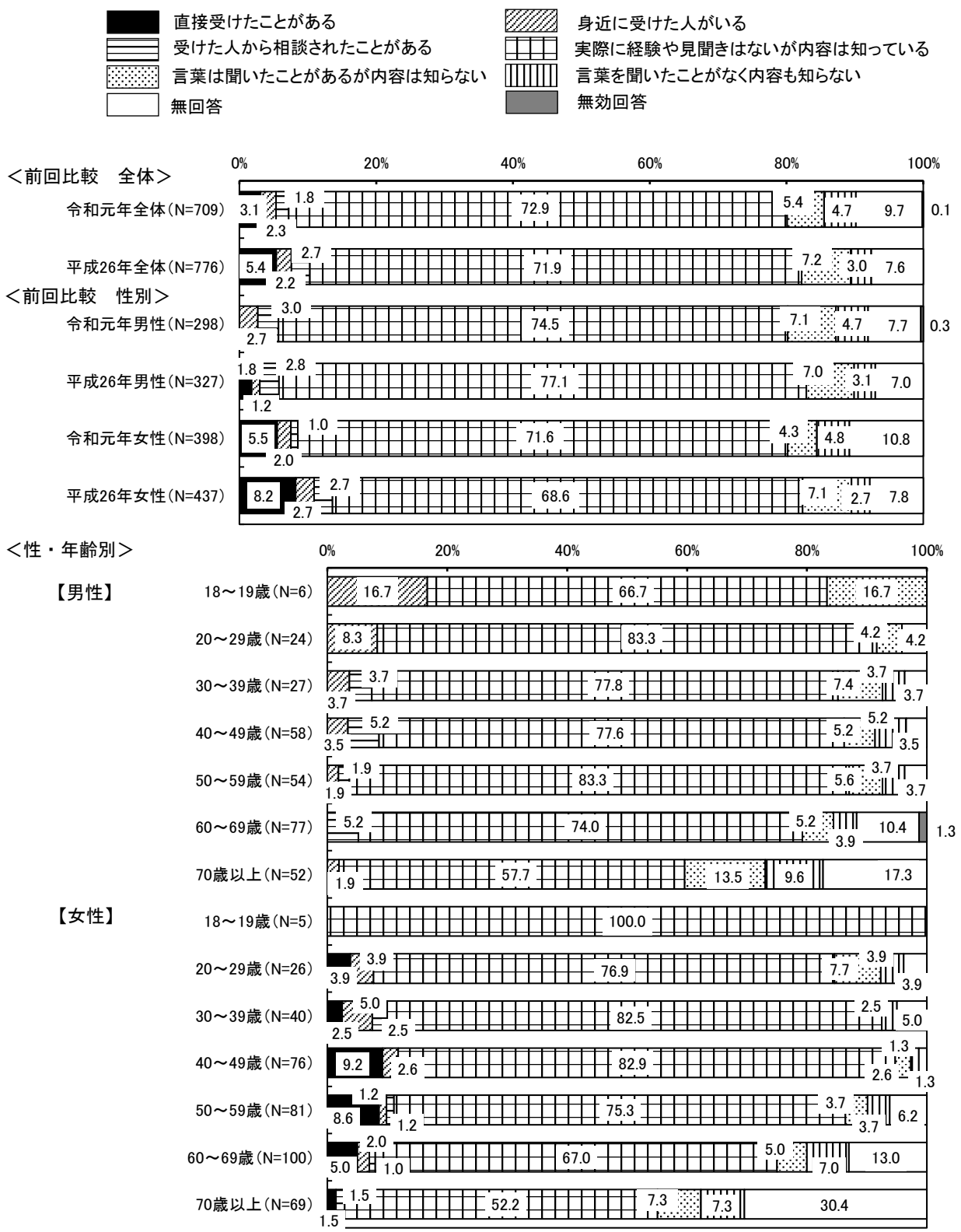
全体では「実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている」が 70.1%と最も高い。「直接受けたことがある」「身近に受けた人がいる」「受けた人から相談されたことがある」を合計した 11.0%が直接または身近な出来事として経験しているといえる。

前回調査と比べると、「言葉を聞いたことがなく内容も知らない」の割合が 1.2 ポイント高くなり、「実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている」が 0.6 ポイント高くなっている。

性別にみると、「直接受けたことがある」「身近に受けた人がいる」「受けた人から相談されたことがある」の合計が女性では 13.9%で、男性では 7.4%と、女性の方が 6.5 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「直接受けたことがある」の割合では、40 歳代女性が 23.7%と最も高く、次に 20 歳代女性が 11.5%で、50 歳代女性が 11.1%となっている。

〔ストーカー行為〕 (3)



全体では「実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている」が 72.9%と最も高い。「直接受けたことがある」「身近に受けた人がいる」「受けた人から相談されたことがある」を合計した 7.2%が直接または身近な出来事として経験しているといえる。

前回調査と比べると、「言葉を聞いたことがなく内容も知らない」の割合が 1.7 ポイント高くなり、「実際に経験したり見聞きしたことはないが内容は知っている」が 1.0 ポイント高くなっている。

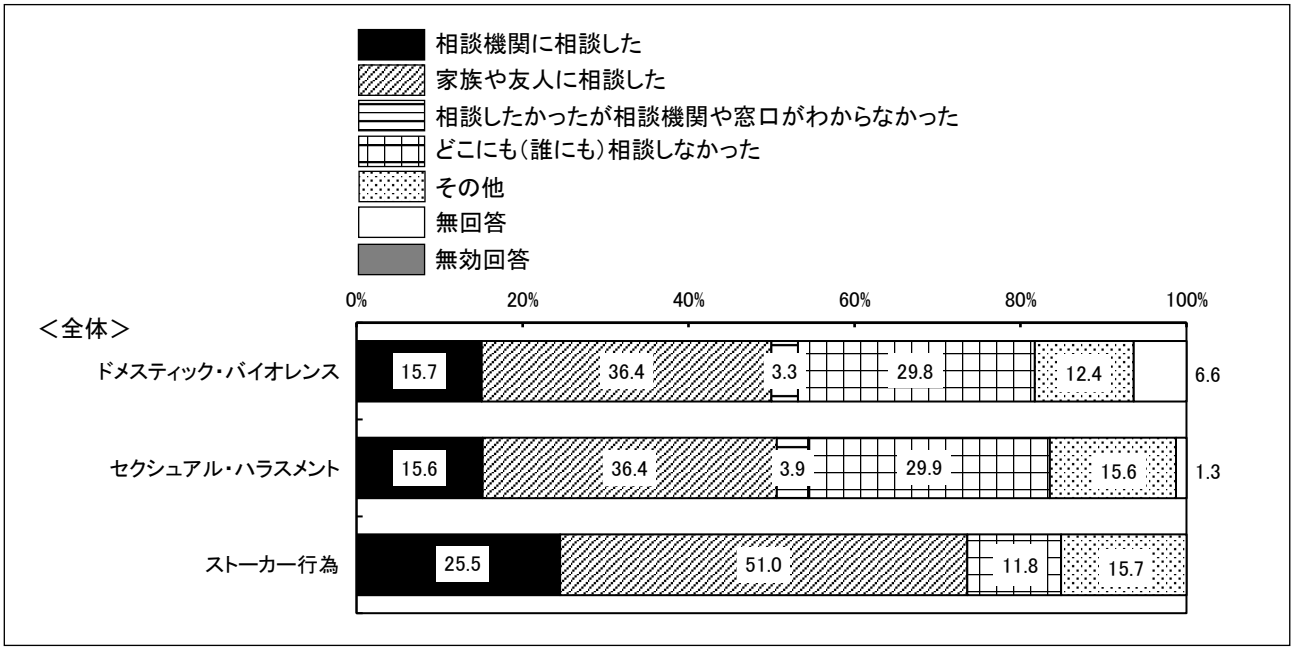
性別にみると、「直接受けたことがある」「身近に受けた人がいる」「受けた人から相談されたことがある」の合計が女性では 8.5%で、男性では 5.7%と、女性の方が 2.8 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「直接受けたことがある」の割合では、40 歳代女性が 9.2%と最も高く、次に 50 歳代女性が 8.6%で、60 歳代女性が 5.0%となっている。

（2） 主に女性に対する暴力への対応状況

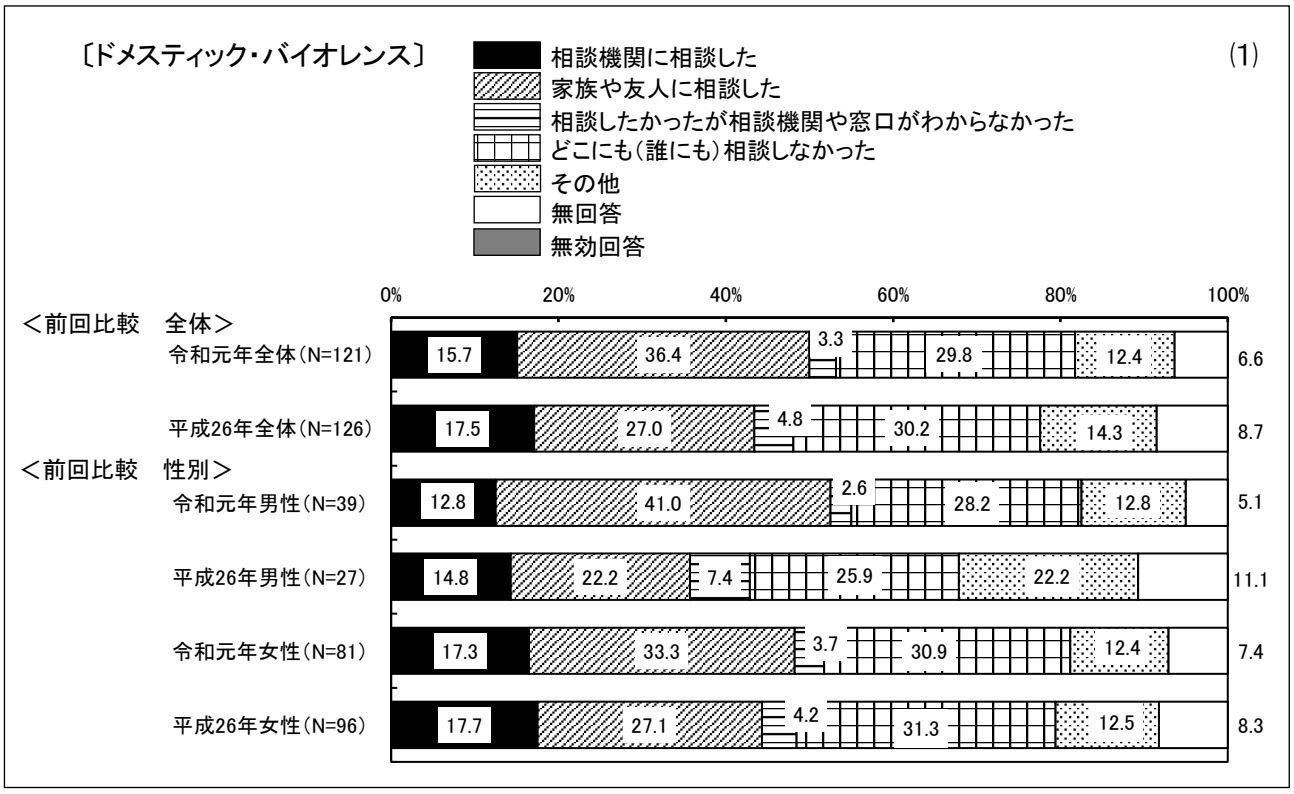
問 26-2　問 26-1 で「１～３」とお答えの方におたずねします。

その後どのような対応をしましたか。（(1)～(3)であてはまるものすべてに○）



“ドメスティック・バイオレンス”“セクシュアル・ハラスメント”“ストーカー行為”ともに「家族や友人に相談した」が最も高い。

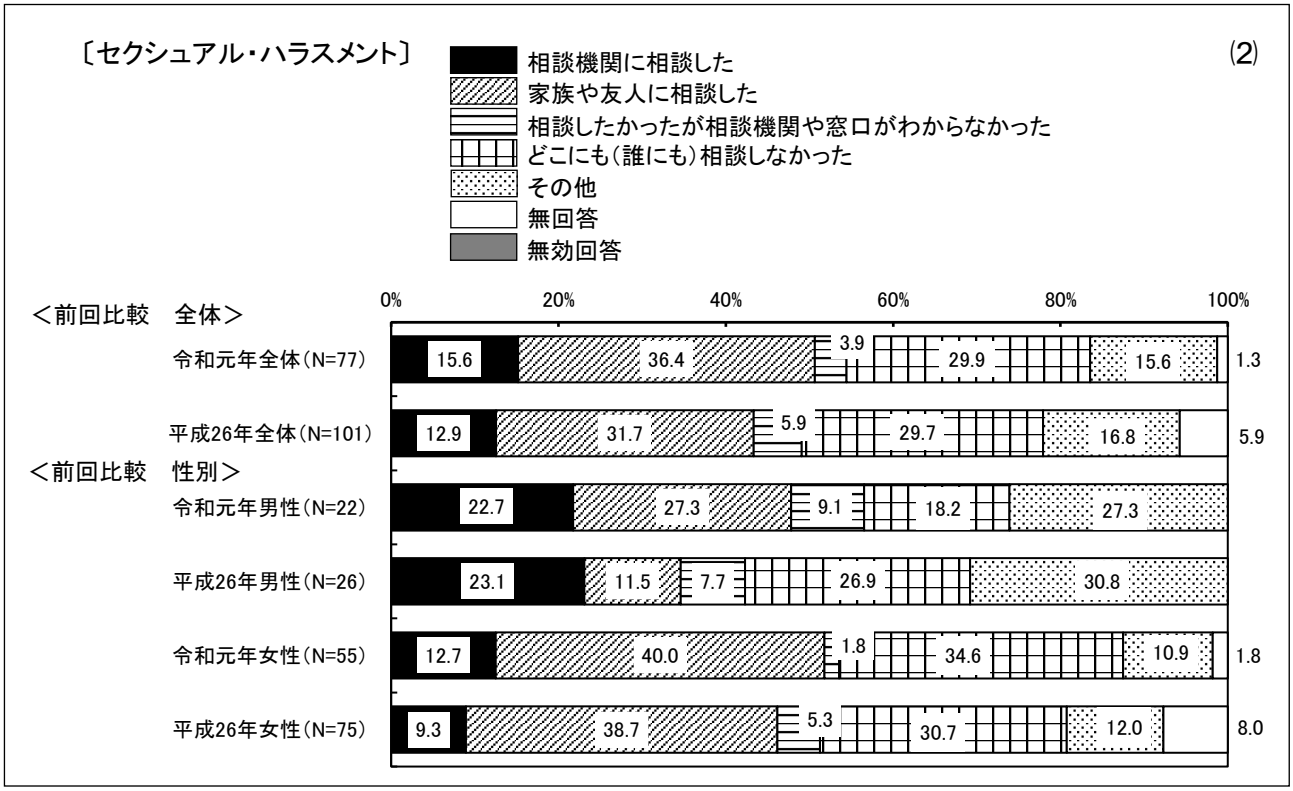
また、「相談機関に相談した」の割合では、“ストーカー行為”が 25.5%と最も高く、次に“ドメスティック・バイオレンス”が 15.7%で、“セクシュアル・ハラスメント”が 15.6%となっている。



全体では「家族や友人に相談した」が 36.4%と最も高い。

前回調査と比べると、「相談機関に相談した」の割合が 1.8 ポイント低くなっている。

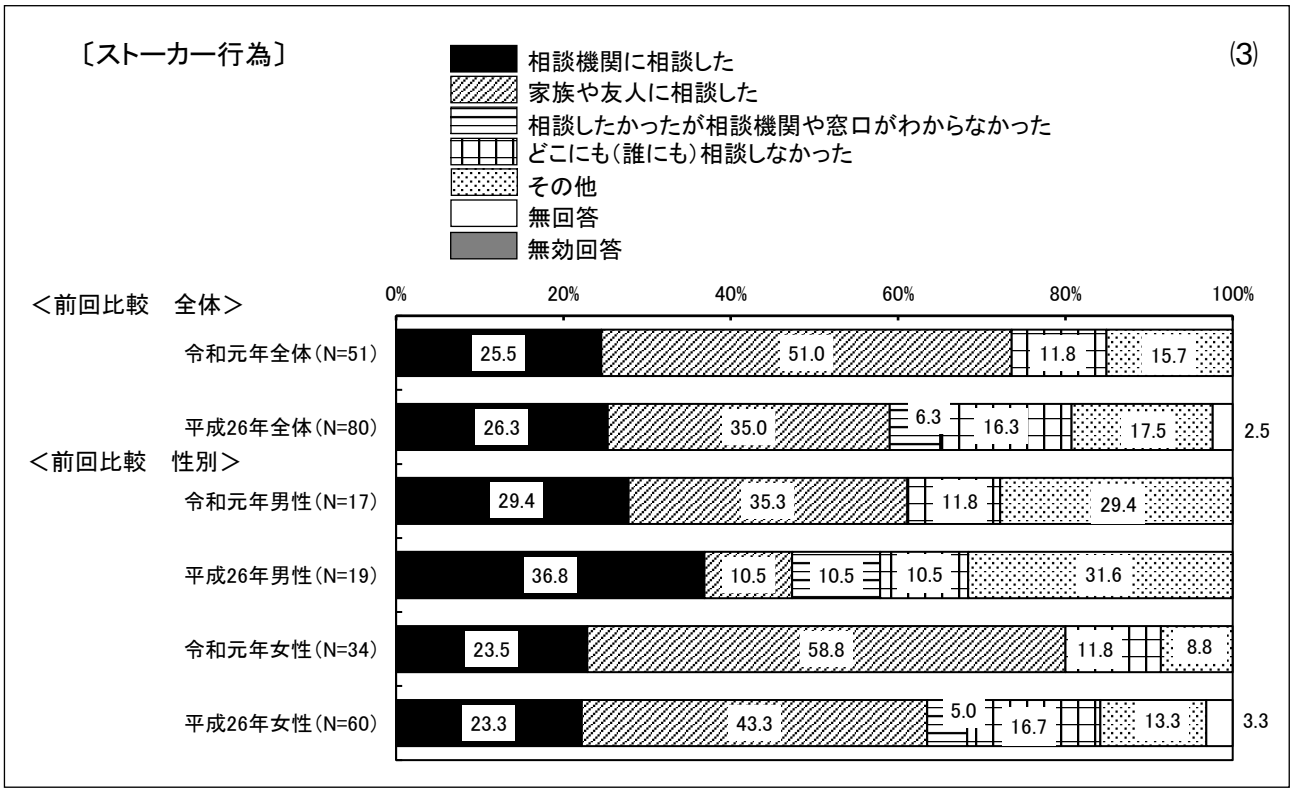
性別にみると、「相談したかったが相談機関や窓口がわからなかった」の割合が女性では 3.7%で女性の方が 1.1 ポイント高い。



全体では「家族や友人に相談した」が 36.4%と最も高い。

前回調査と比べると、「どこにも(誰にも)相談しなかった」の割合が 0.2 ポイント高くなっている。

性別にみると、「家族や友人に相談した」の割合が女性では 40.0%で女性の方が 12.7 ポイント高く、「相談機関に相談した」の割合が男性では 22.7%で男性の方が 10.0 ポイント高い。



全体では「家族や友人に相談した」が 51.0%と最も高い。

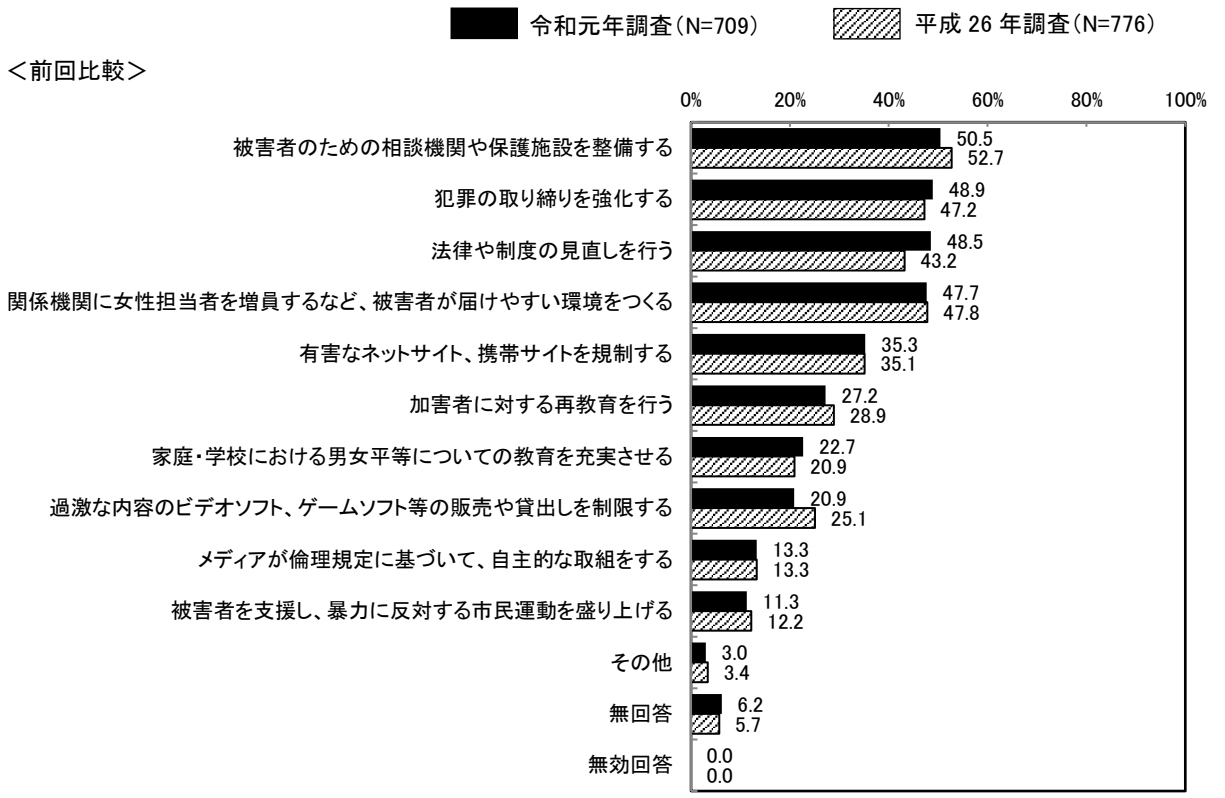
前回調査と比べると、「家族や友人に相談した」の割合が 16.0 ポイント高くなっている。

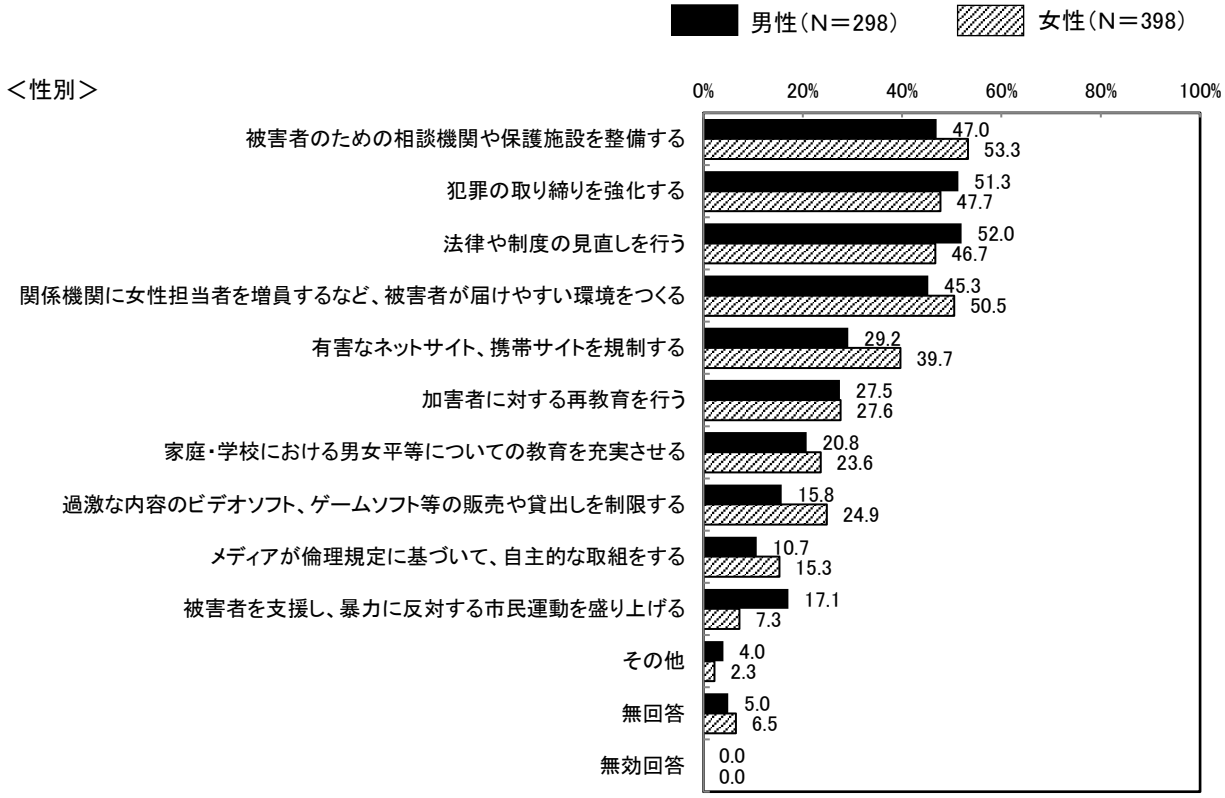
性別にみると、男性では「相談機関に相談した」が 29.4%で最も高く、女性では「家族や友人に相談した」の割合が 58.8%で最も高い。

（3） 女性に対する暴力に関する意識

① 女性に対する暴力を防止する方策

問 27 DV、セクハラなどをなくするために何が重要であると思いますか。
（あてはまるものすべてに〇）

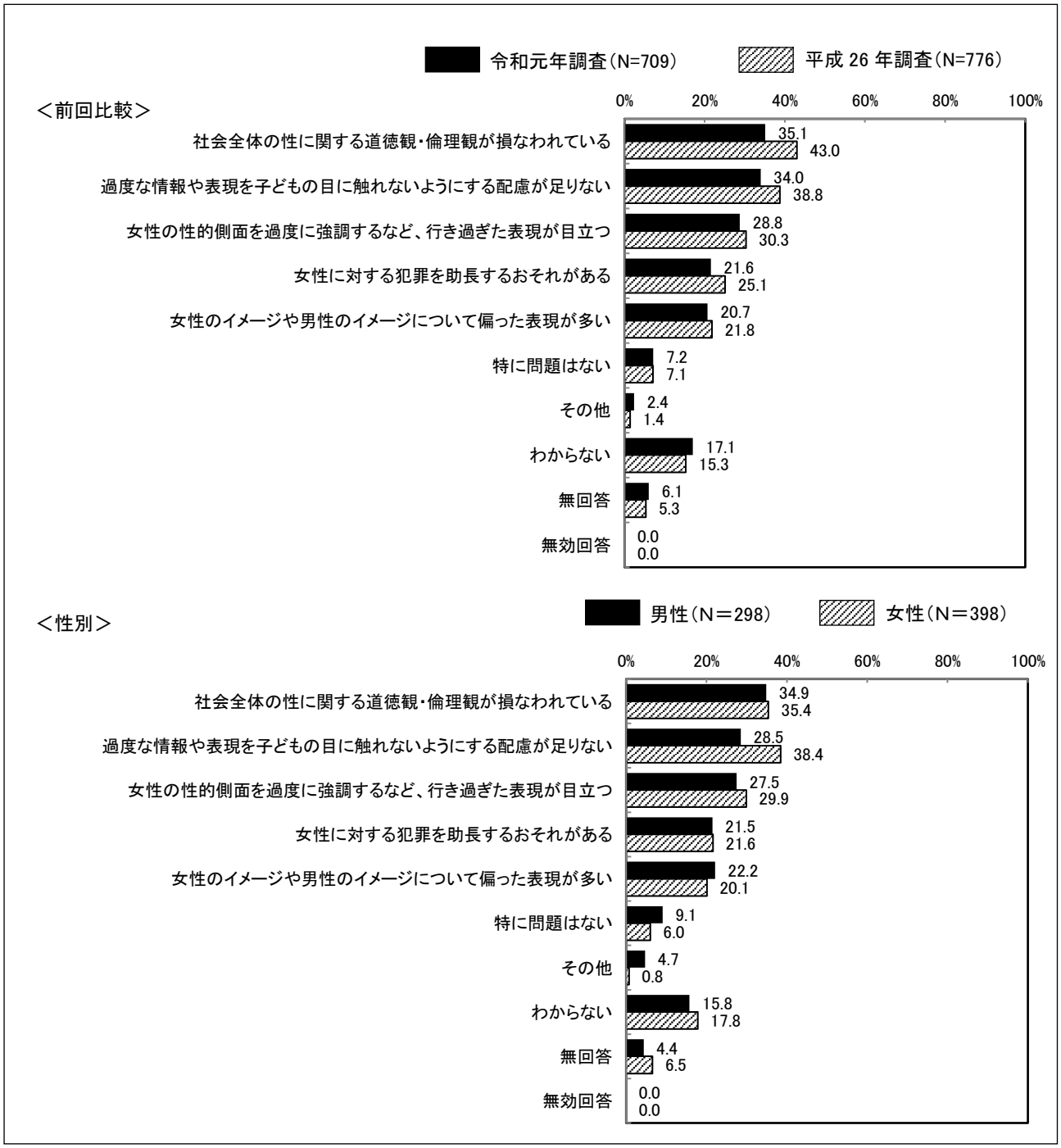




全体では「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」が 50.5%と最も高い。
前回調査と比べると、「法律や制度の見直しを行う」が 5.3 ポイント高くなっている。
性別にみると、「有害なネットサイト、携帯サイトを規制する」の割合が女性では 39.7%で女性の方が 10.5 ポイント高い。

② メディアにおける表現について

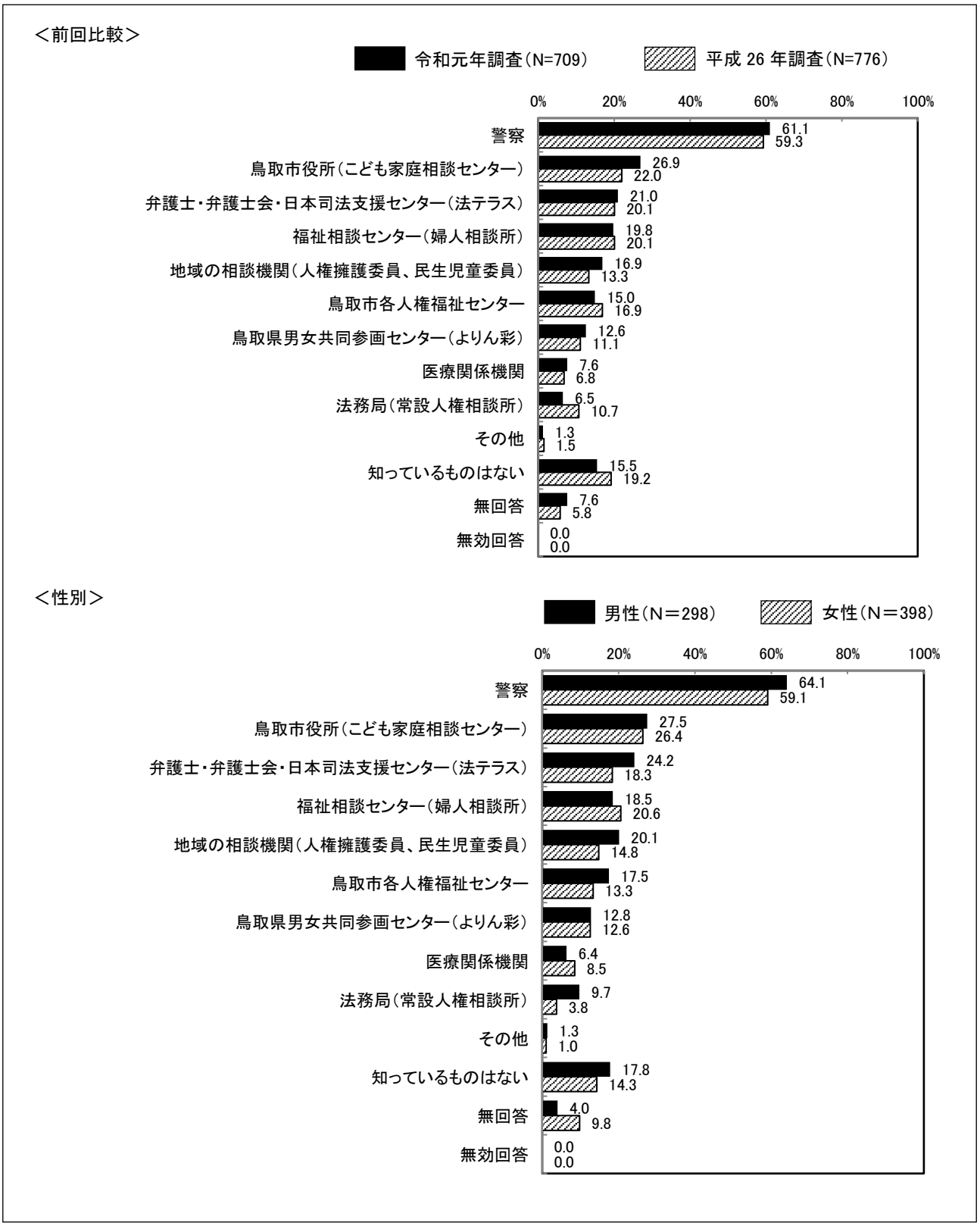
問 28 新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどメディアにおける性や暴力の表現についてどのように思いますか。（あてはまるものすべてに○）



全体では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が 35.1%と最も高い。
前回調査と比べると、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が 7.9 ポイント低くなっている。
性別にみると、「過度な情報や表現を子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」の割合が女性では 38.4%で女性の方が 9.9 ポイント高い。

③ ドメスティック・バイオレンスの相談窓口の認知度

問 29　DVについて相談できる窓口についてご存知の機関はありますか。
（あてはまるものすべてに○）



全体では「警察」が 61.1％と最も高い。また「知っているものはない」が 15.5％である。

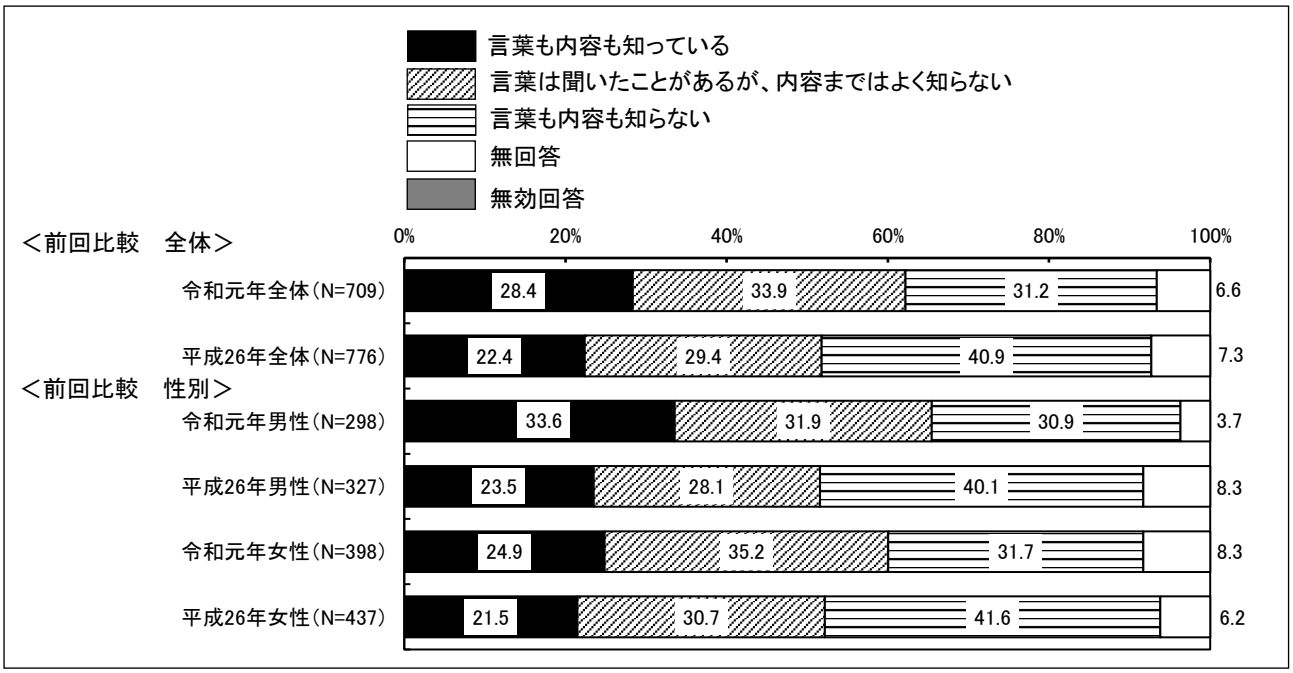
前回調査と比べると、「鳥取市役所（こども家庭相談センター）」が 4.9 ポイント高くなり、「法務局（常設人権相談所）」が 4.2 ポイント低くなっている。

性別にみると、「弁護士・弁護士会・日本司法支援センター（法テラス）」の割合が男性では 24.2％で男性の方が 5.9 ポイント高い。

６ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

（1） ワーク・ライフ・バランスの認知度

問 30 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。（○は１つ）



全体では「言葉は聞いたことがあるが、内容まではよく知らない」が 33.9％と最も高い。

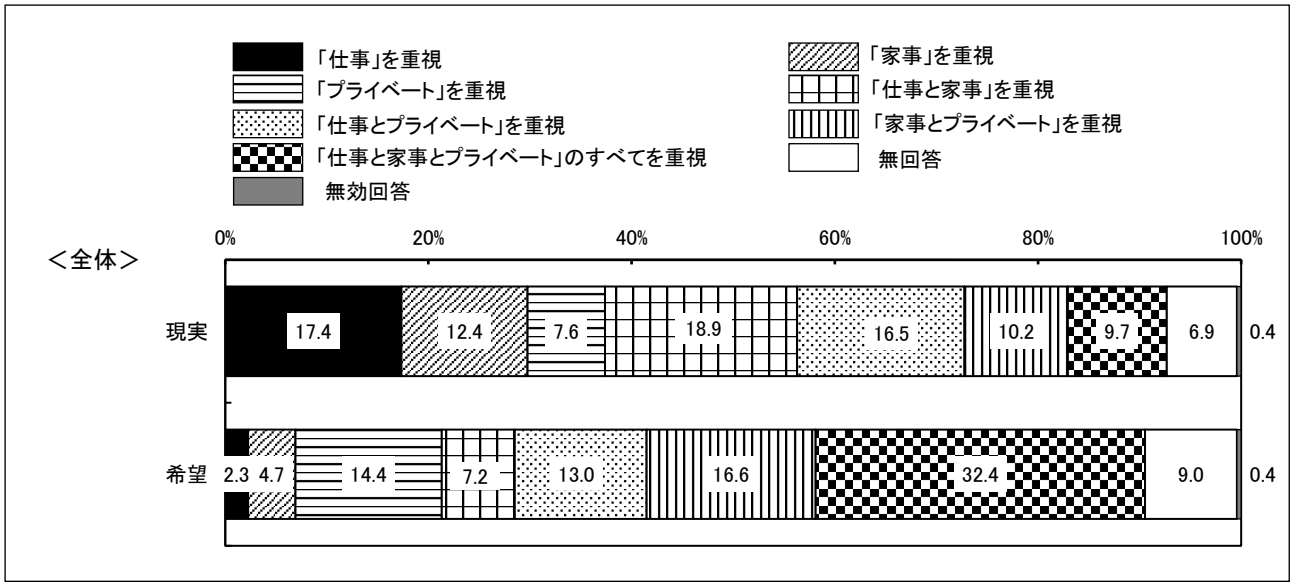
前回調査と比べると、「言葉も内容も知らない」の割合が 9.7 ポイント低く、「言葉も内容も知っている」の割合が 6.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、「言葉も内容も知っている」の割合が男性の方が 8.7 ポイント高い。

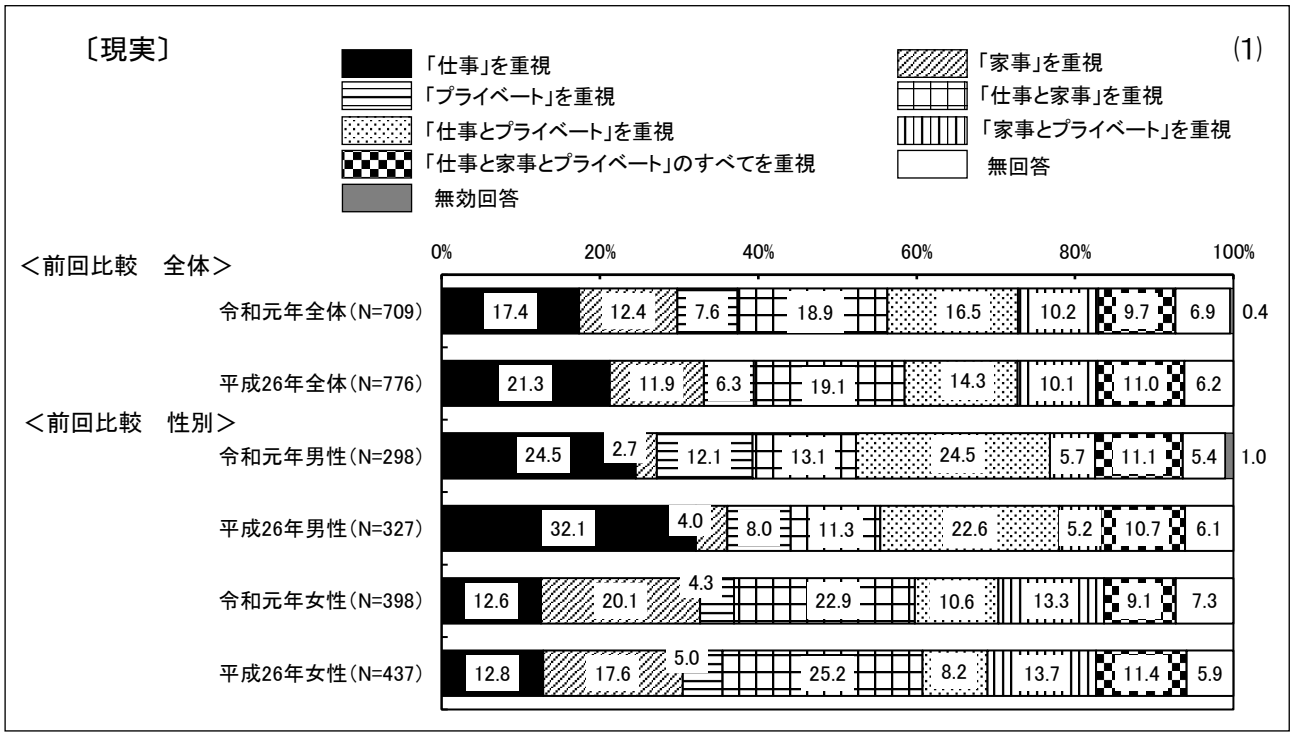
（2） 日常生活における優先度

問 31 「仕事」「家事」「プライベート（趣味など）」の優先度をおたずねします。

（(1)(2)について○はそれぞれ１つずつ）

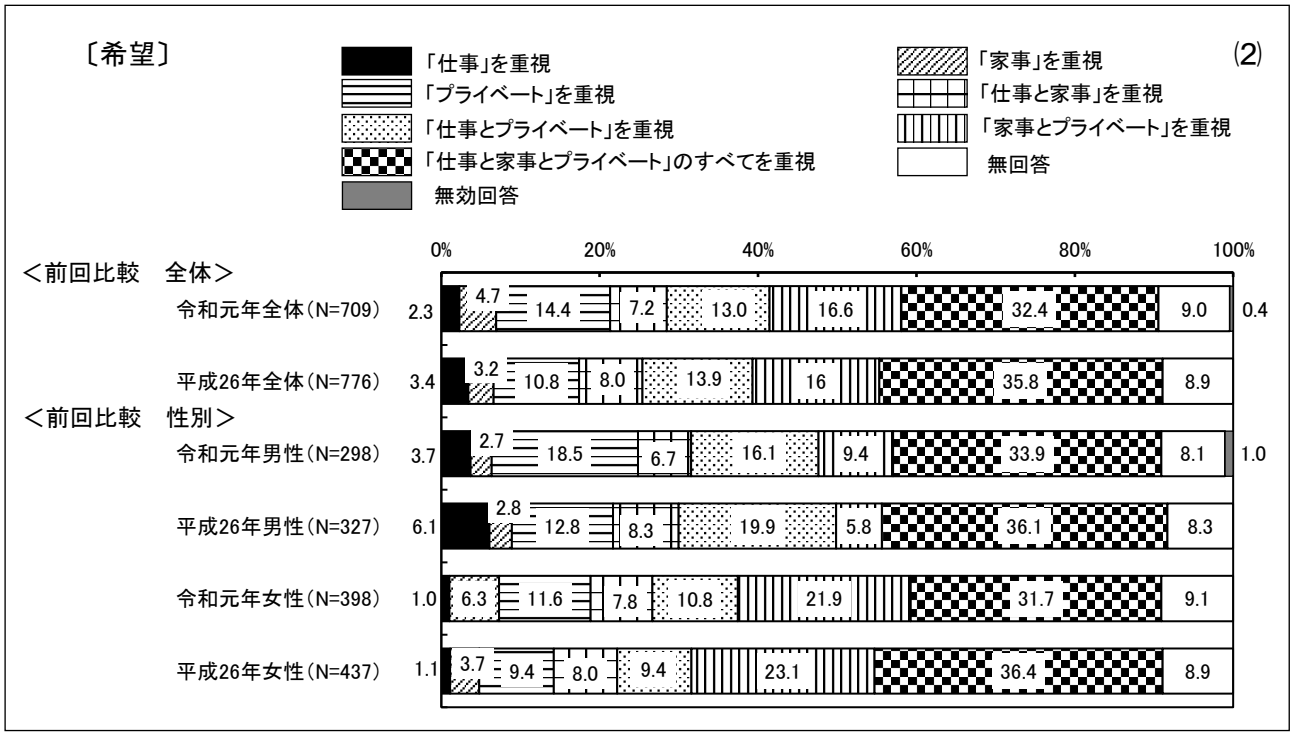


“現実”の全体では「仕事と家事を重視」が 18.9％で最も高く、次に「仕事を重視」が 17.4％である。また、“希望”の全体では「仕事と家事とプライベートのすべてを重視」が 32.4％で最も高く、次に「家事とプライベートを重視」が 16.6％である。



前回調査と比べると、「仕事を重視」の割合が 3.9 ポイント低くなり、「仕事とプライベートを重視」の割合が 2.2 ポイント高くなっている。

性別にみると、「仕事を重視」の割合が男性では 24.5%で男性の方が 11.9 ポイント高い。

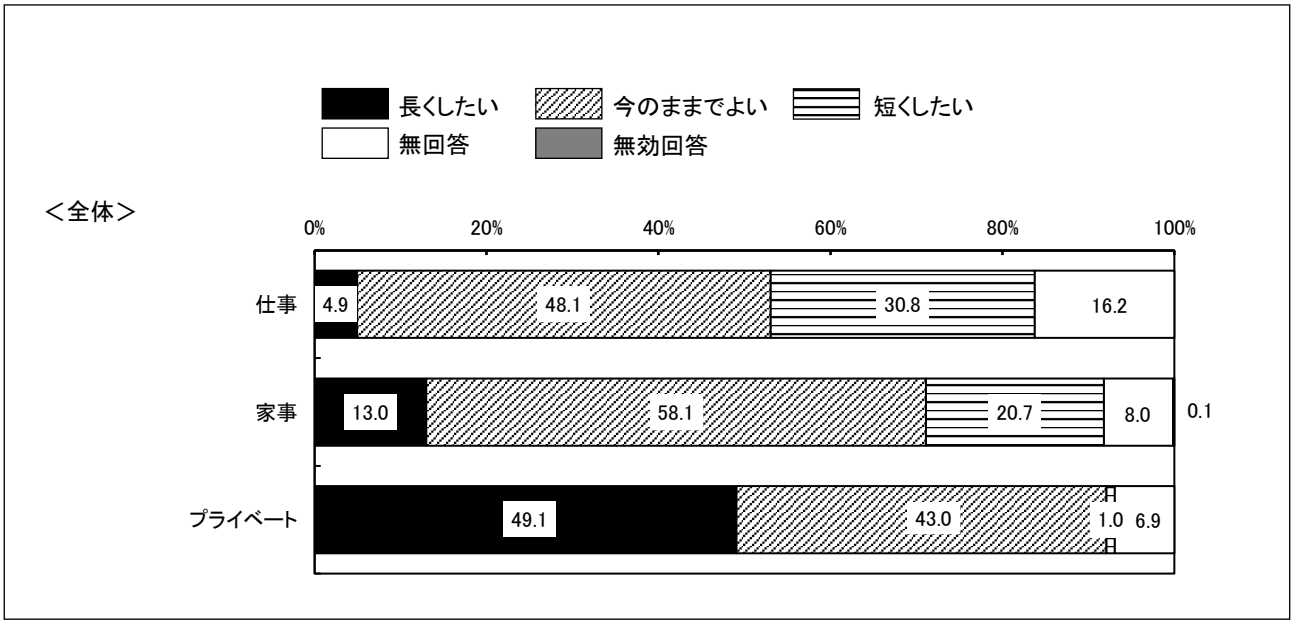


前回調査と比べると、「プライベートを重視」の割合が 3.6 ポイント高くなり、「仕事と家事とプライベートのすべてを重視」の割合が 3.4 ポイント低くなっている。

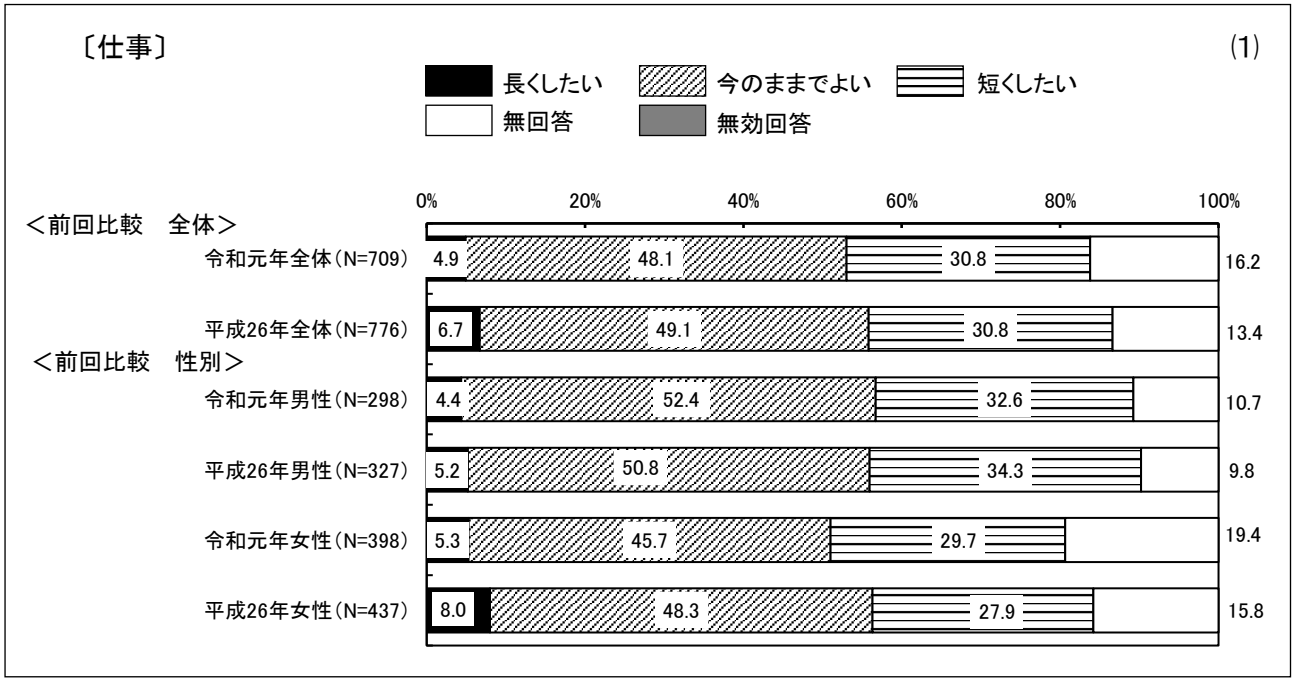
性別にみると、「家事とプライベートを重視」の割合が女性では 21.9%で女性の方が 12.5 ポイント高く、「プライベートを重視」の割合が男性では 18.5%で男性の方が 6.9 ポイント高い。

（3） 希望する時間のバランスについて

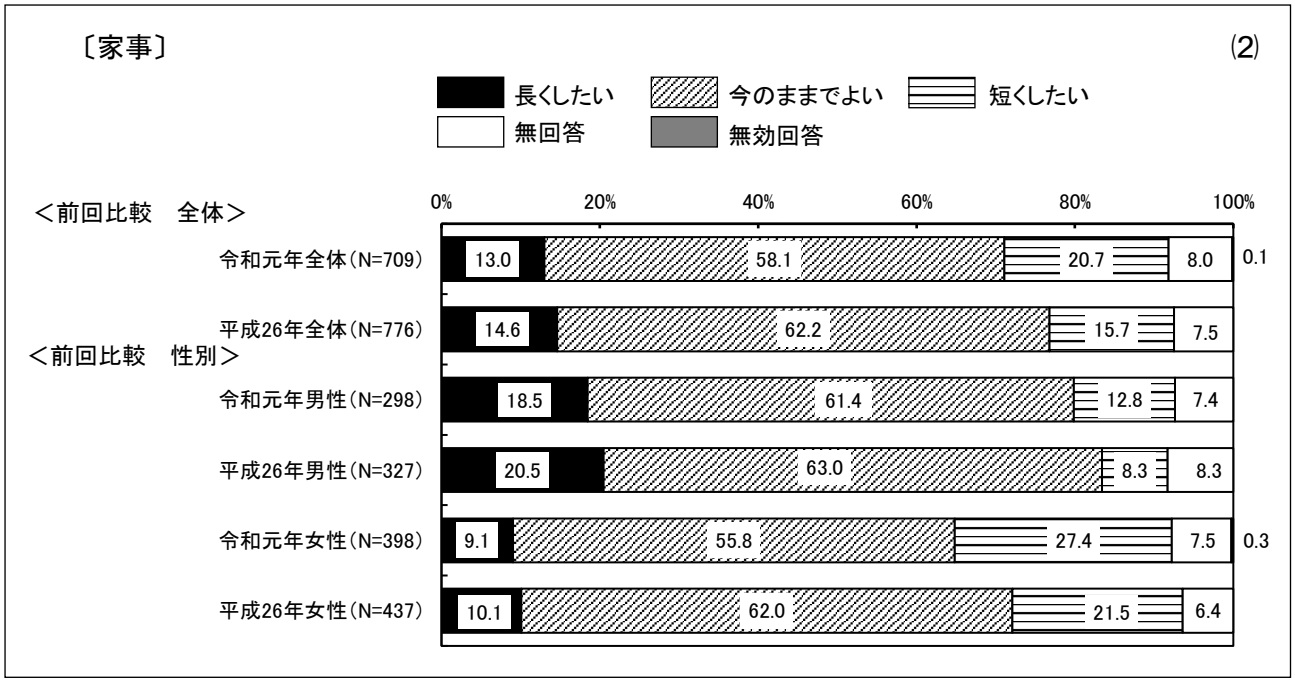
問 32 「仕事」「家事」「プライベート」の時間のバランスを今後どのようにしたいと思いますか。
（(1) ～(3)について○は 1 つずつ）



“仕事”と“家事”では「今のままでよい」が最も高く、“プライベート”では「長くしたい」が最も高い。
また、「短くしたい」の割合では“仕事”が 30.8%で最も高い。

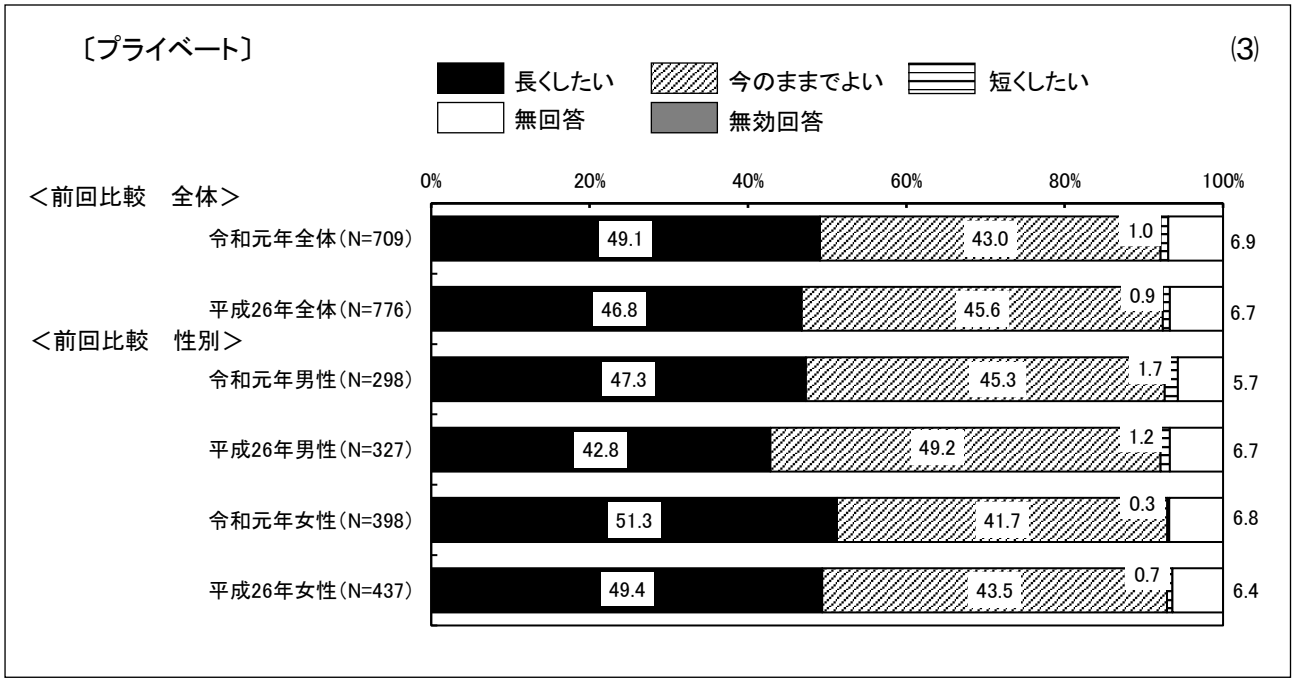


前回調査と比べると、あまり違いはみられない。
性別にみると、「短くしたい」の割合が男性では 32.6%で男性の方が 2.9 ポイント高い。



前回調査と比べると「短くしたい」が 20.7％で 5.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、「短くしたい」の割合が女性では 27.45％で女性の方が 14.6 ポイント高く、「長くしたい」の割合が男性では 18.5％で男性の方が 9.4 ポイント高い。



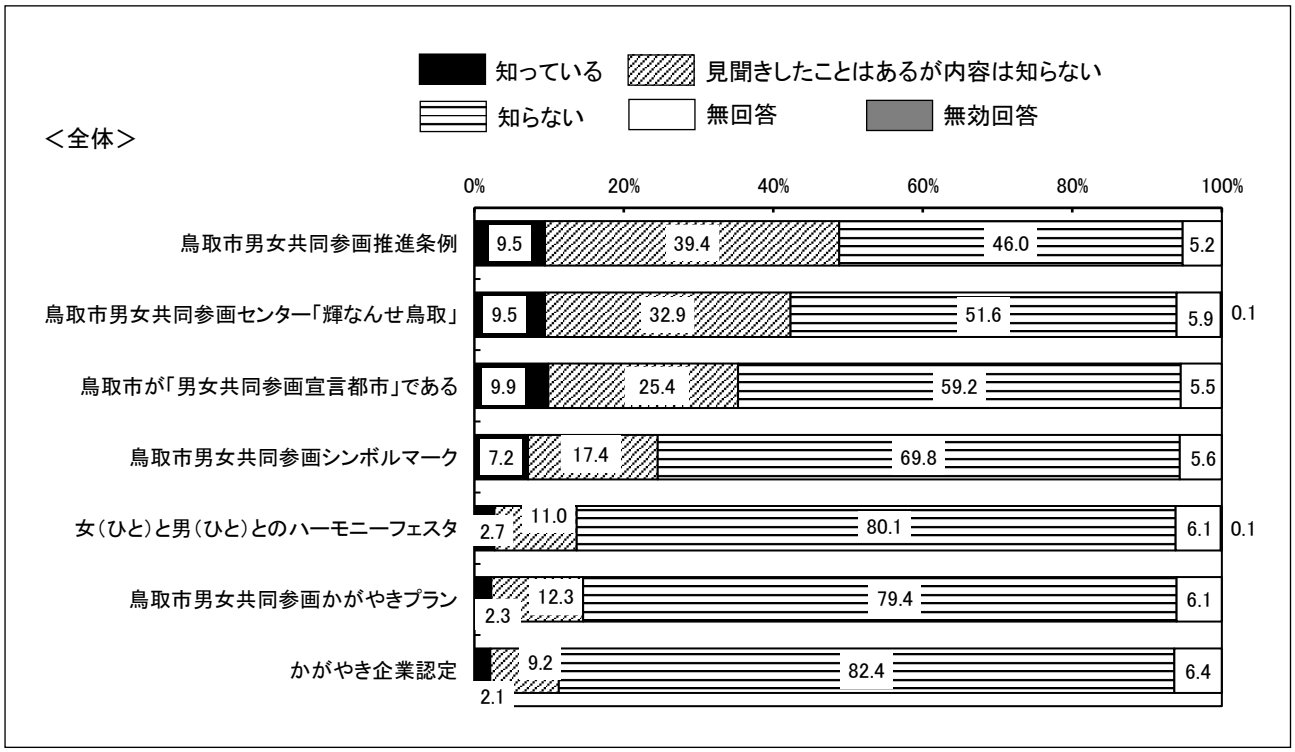
前回調査と比べると、「長くしたい」の割合が 2.3 ポイント低くなっている。

性別にみると、「長くしたい」の割合が女性では 51.3％で女性の方が 4.0 ポイント高く、「今のままでよい」の割合が男性では 45.3％で男性の方が 3.6 ポイント高い。

7　男女共同参画推進に関する施策

（1）各種施策の認知度

問 34　鳥取市が実施している施策、事業などを知っていますか。（(1)～(7)について○は 1 つずつ）

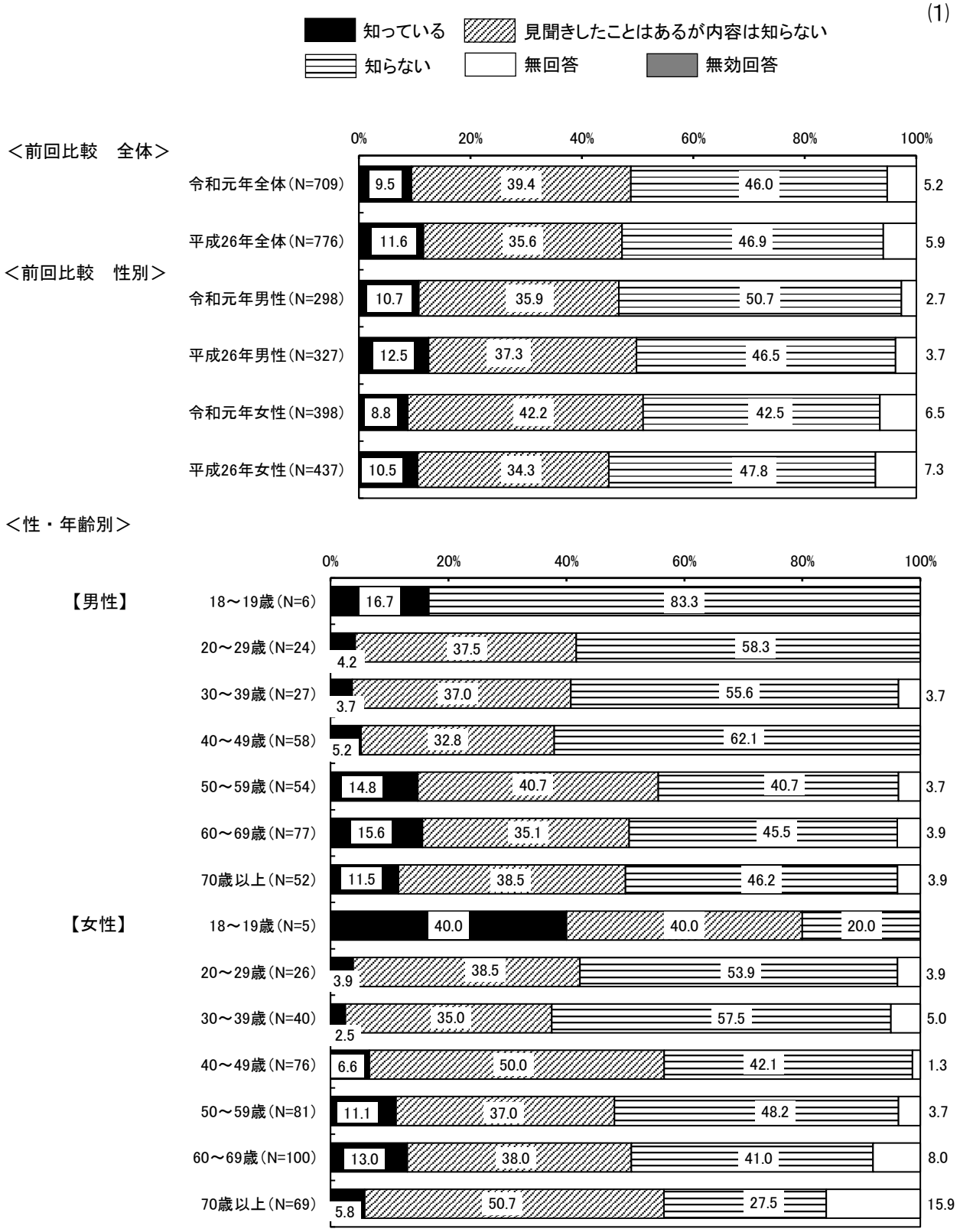


「知っている」または「見聞きしたことはあるが内容は知らない」の割合は“鳥取市男女共同参画推進条例”（48.9％）が最も高く、次が“鳥取市男女共同参画センター「輝なんせ鳥取」”（42.4％）で、“鳥取市が「男女共同参画宣言都市」である”（35.3％）となっている。

“女（ひと）と男（ひと）とのハーモニーフェスタ”“鳥取市男女共同参画かがやきプラン”“かがやき企業認定”では「知らない」が 7 割以上である。

〔鳥取市男女共同参画推進条例〕

(1)



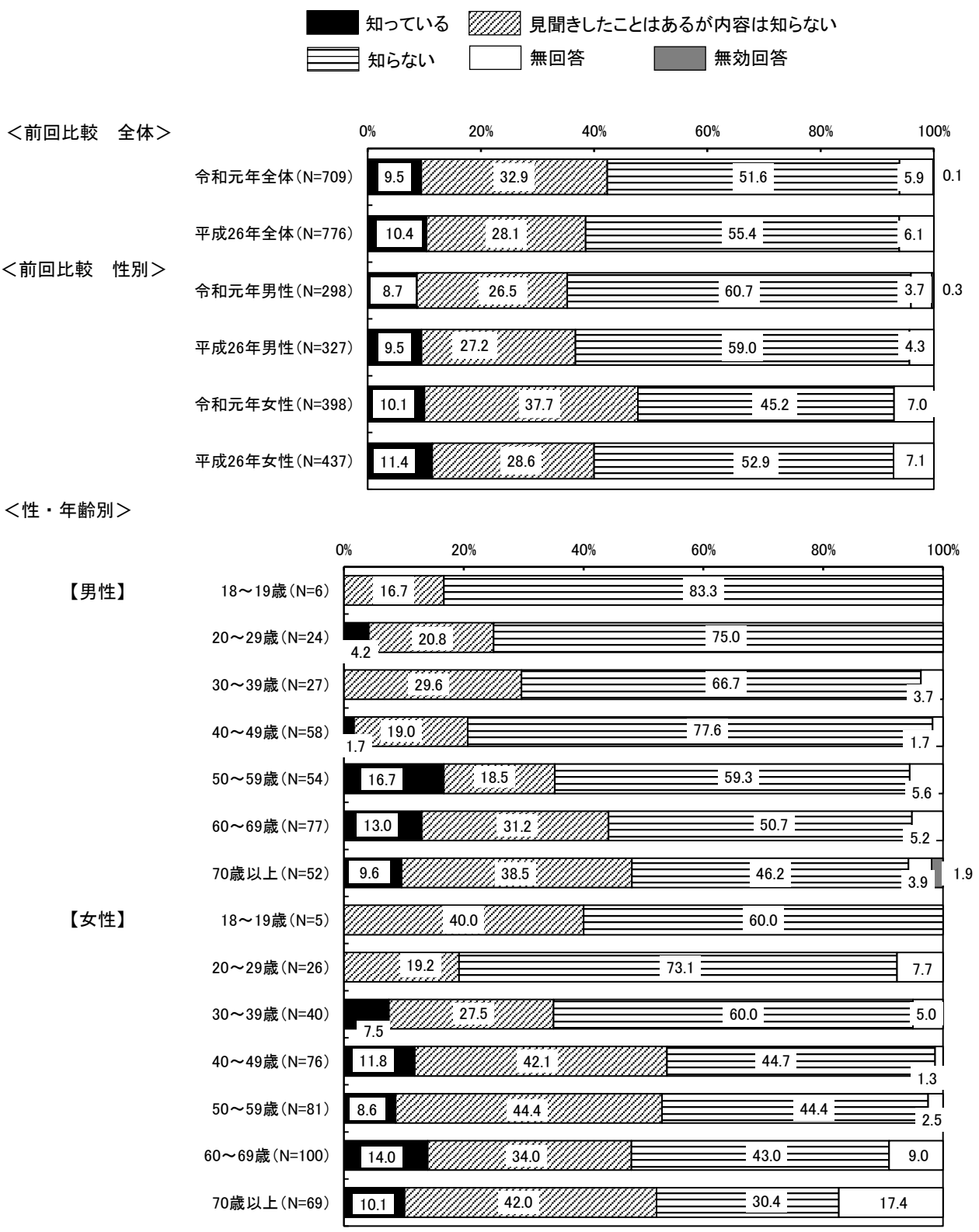
全体では「知らない」が 46.0％と最も高く、次に「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が39.4％である。

前回調査と比べると、あまり違いがみられない。

性別にみると、「見聞きしたことはあるが内容は知らない」の割合が女性では 42.2％で女性の方が 6.3 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「知らない」が 18～19 歳男性・40 歳代男性では 6 割以上である。

〔鳥取市男女共同参画センター「輝なんせ鳥取」〕 (2)



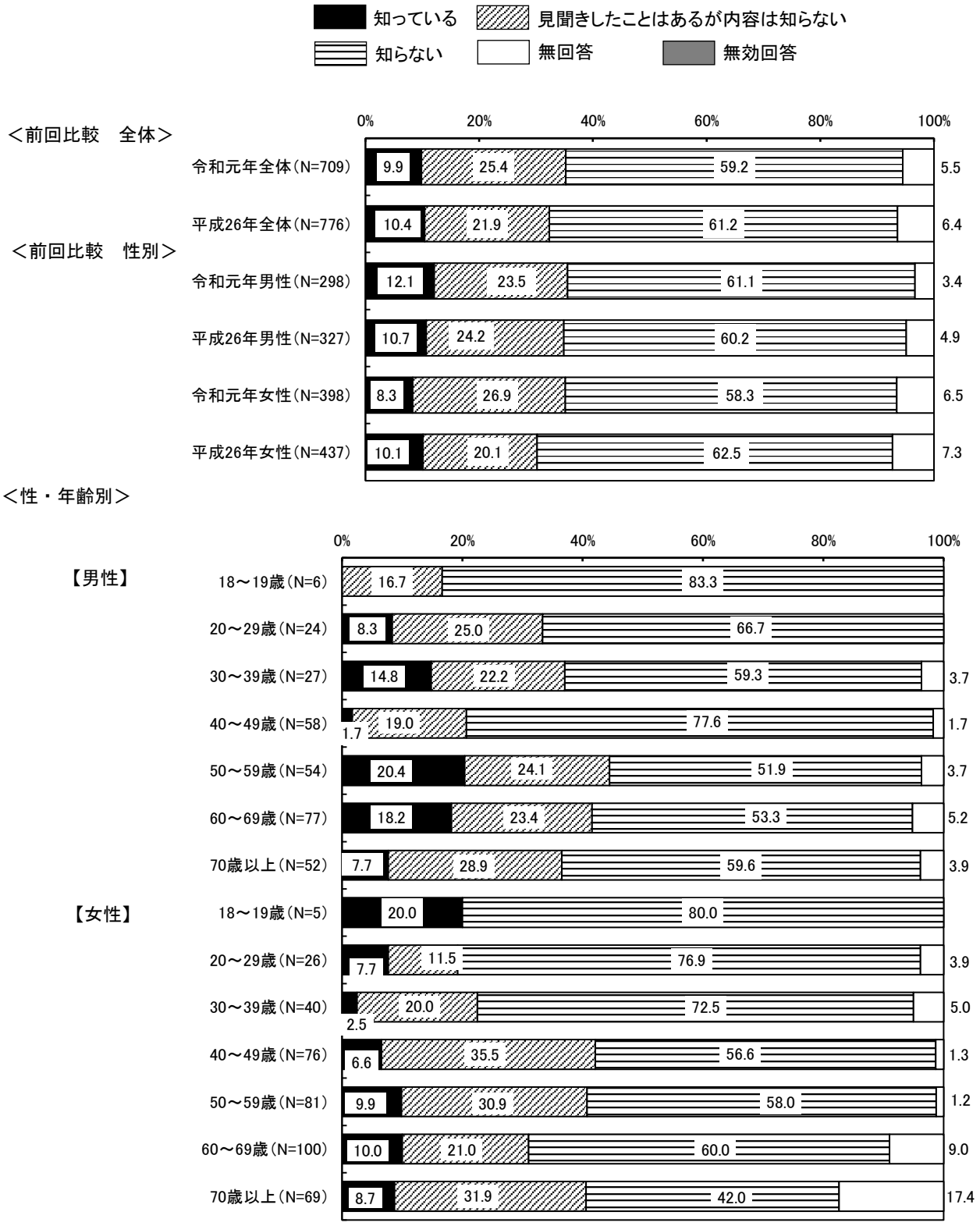
全体では「知らない」が 51.6％と最も高く、次に「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が 32.9％である。

前回調査と比べると、「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が 4.8 ポイント高くなっている。

性別にみると、「知らない」の割合が男性では 60.7％で男性の方が 15.5 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「知らない」が 18～19 歳男性では 8 割以上である。

〔鳥取市が「男女共同参画宣言都市」である〕 (3)



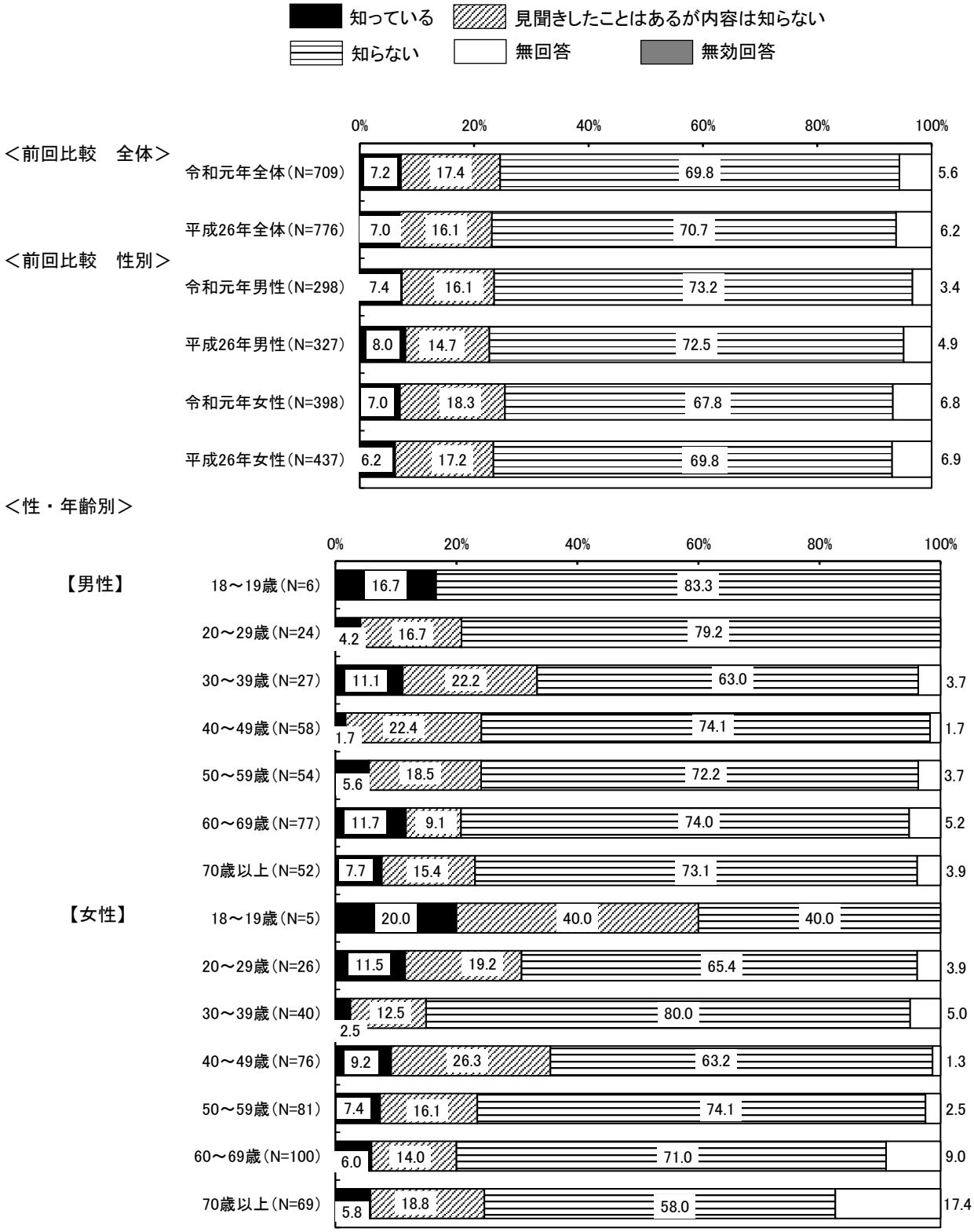
全体では「知らない」が 59.2％と最も高く、次に「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が 25.4％である。

前回調査と比べると、あまり違いがみられない。

性別にみると、「見聞きしたことはあるが内容は知らない」の割合が女性では 26.9％で女性の方が 3.4 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「知らない」が 18～19 歳男女では 8 割以上である。

〔鳥取市男女共同参画シンボルマーク〕 (4)



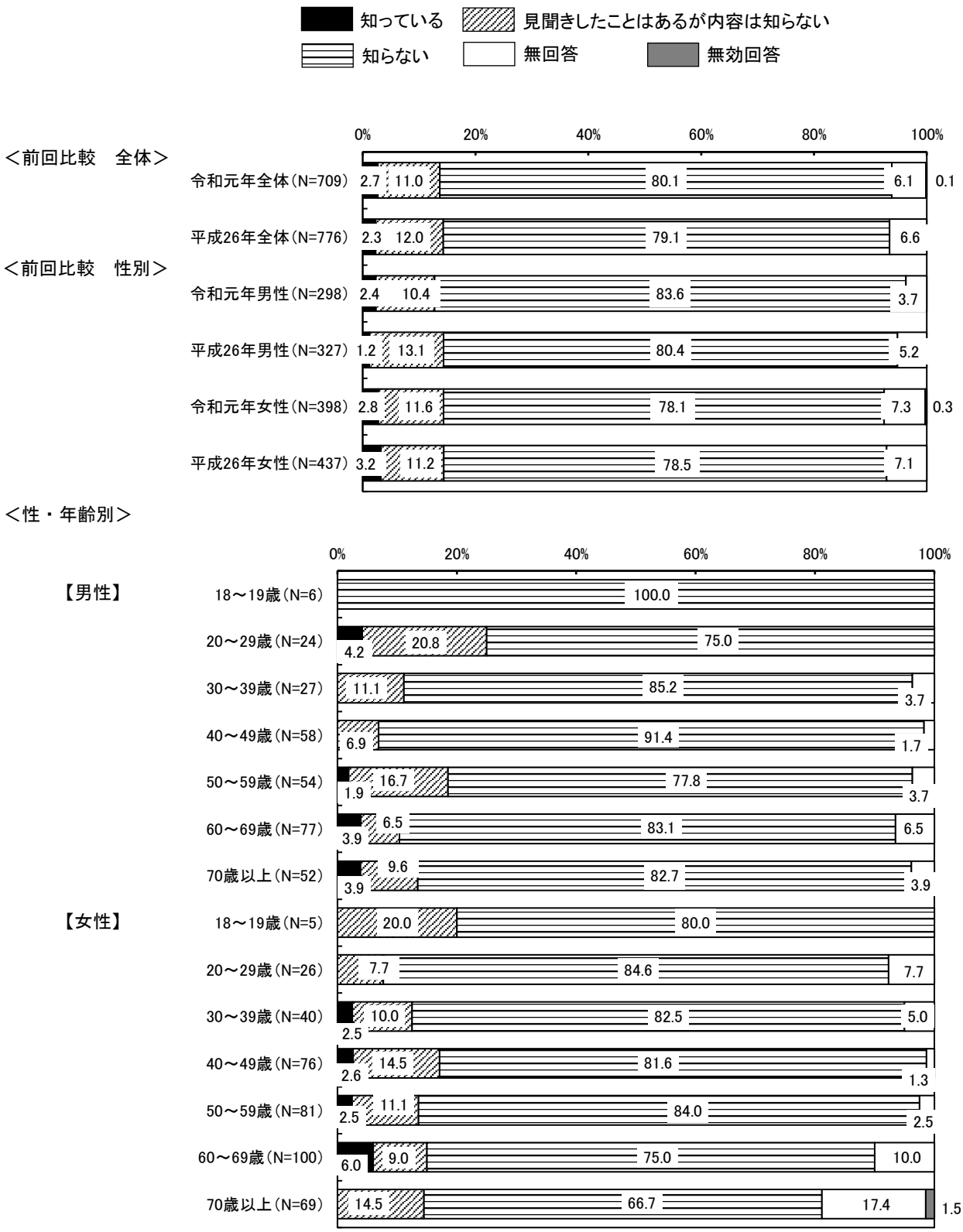
全体では「知らない」が 69.8％と最も高く、次に「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が 17.4％である。

前回調査と比べると、「見聞きしたことはあるが内容は知らない」の割合が 1.3 ポイント高くなっている。

性別にみると、あまり違いはみられない。

性・年齢別にみると、「知らない」が 18～19 歳男性・30 歳代女性では 8 割以上である。

〔女（ひと）と男（ひと）とのハーモニーフェスタ〕 (5)



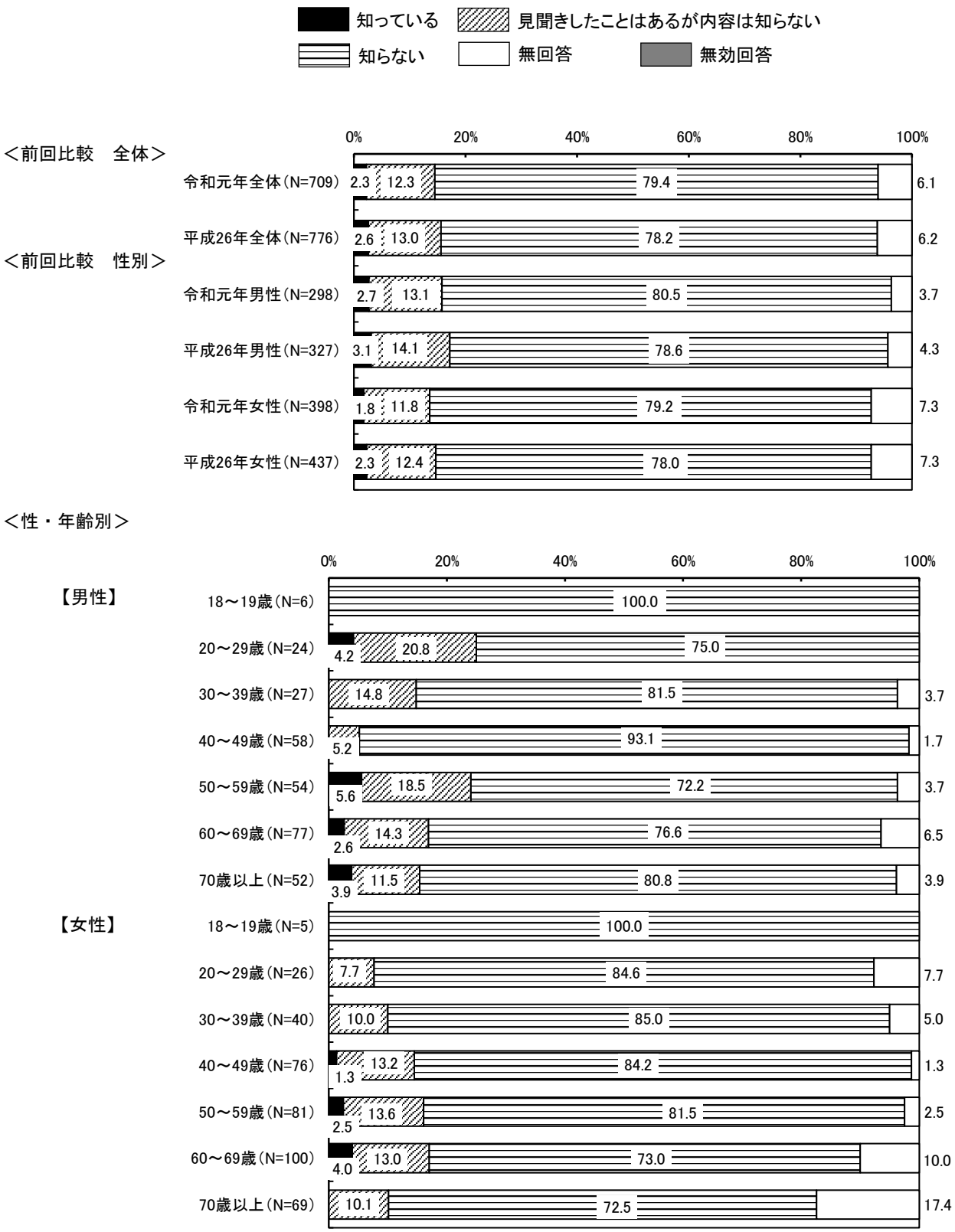
全体では「知らない」が 80.1％と最も高く、次に「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が 11.0％である。

前回調査と比べると、あまり違いはみられない。

性別にみると、あまり違いはみられない。

性・年齢別にみると、「知らない」が 18～19 歳男性・40 歳代男性では 9 割以上である。

〔鳥取市男女共同参画かがやきプラン〕 (6)



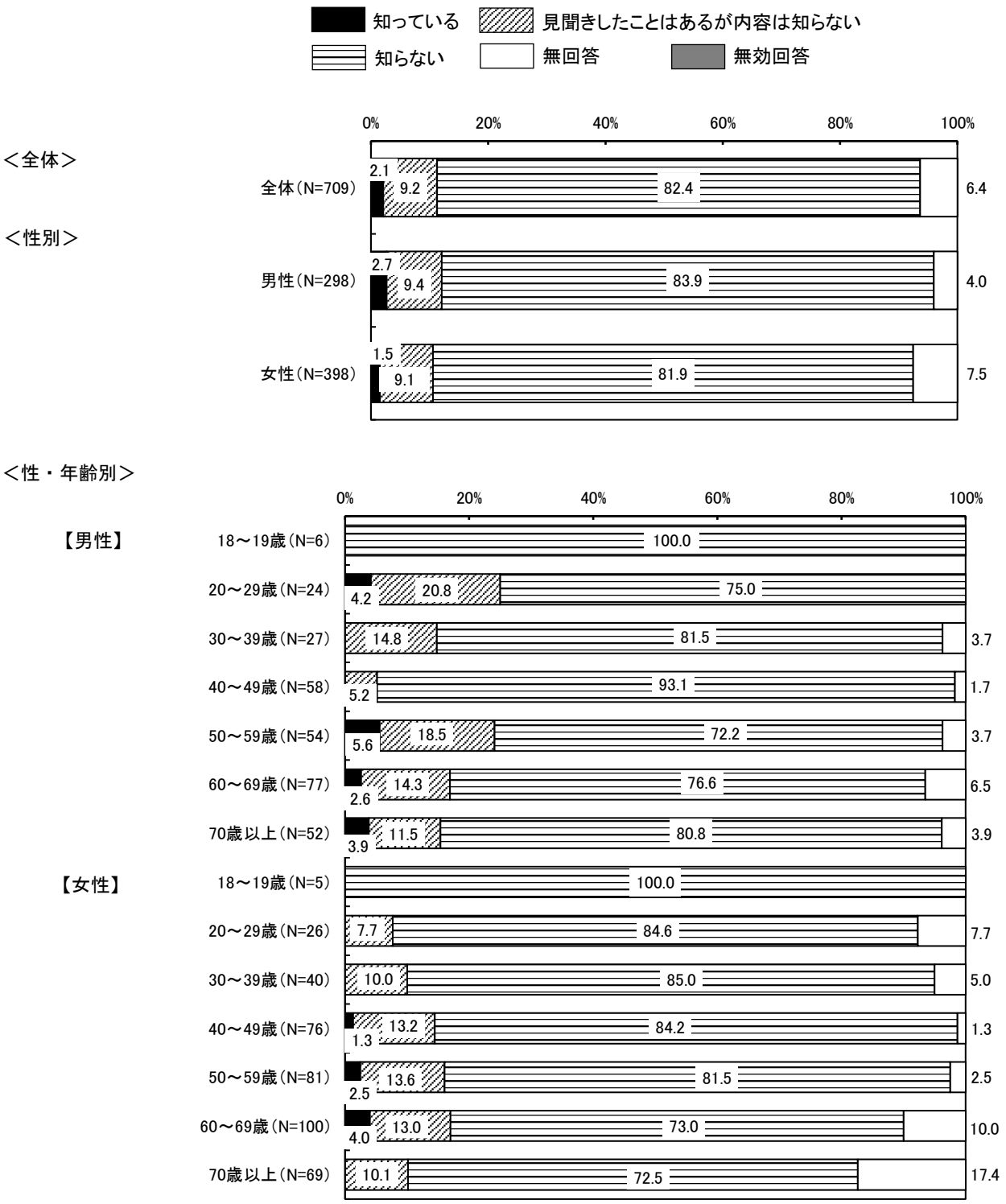
全体では「知らない」が 79.4％と最も高く、次に「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が 12.3％である。

前回調査と比べると、あまり違いはみられない。

性別にみると、あまり違いはみられない。

性・年齢別にみると、「知らない」が 18～19 歳男女・40 歳代男性では 9 割以上である。

〔かがやき企業認定〕 (7)



全体では「知らない」が 82.4％と最も高く、次に「見聞きしたことはあるが内容は知らない」が 9.2％である。

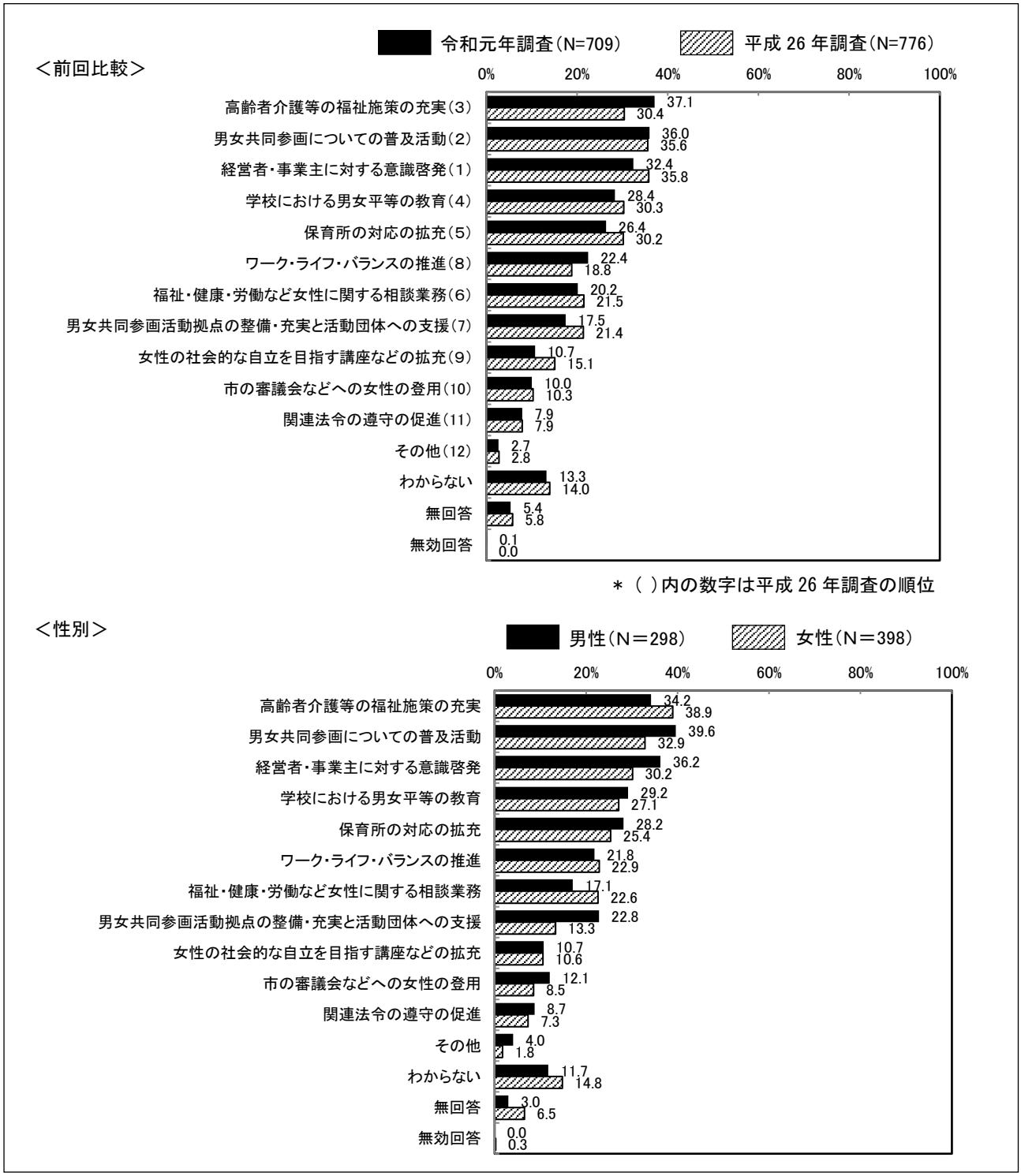
性別にみると、あまり違いはみられない。

性・年齢別にみると、「知らない」が 18～19 歳男女・40 歳代男性では 9 割以上である。

（2） 今後の施策について

① 市として力を入れるべきこと

問 35 今後男女共同参画を進めるために、市で特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○は 5 つ以内）



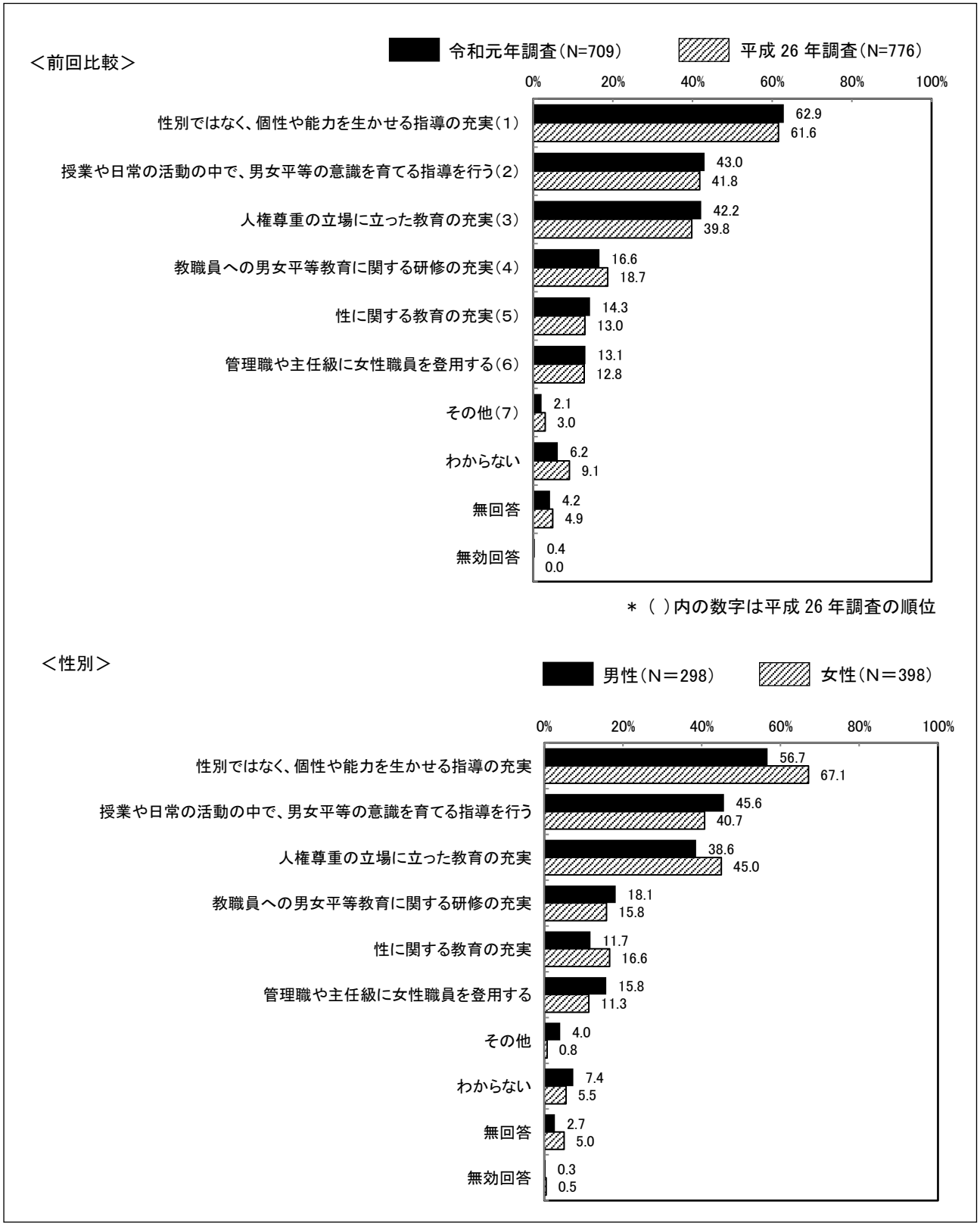
全体では「高齢者介護等の福祉施策の充実」が 37.1％と最も高く、次に「男女共同参画についての普及活動」が 36.0％である。

前回調査と比べると、「高齢者介護等の福祉施策の充実」の割合が 6.7 ポイント高くなり、また「男女共同参画についての普及活動」の割合が 0.4 ポイント高くなっている。

性別にみると、「男女共同参画についての普及活動」の割合が男性では 39.6％で男性の方が 6.7 ポイント高く、また「男女共同参画活動拠点の整備・充実と活動団体への支援」の割合が男性では 22.8％で男性の方が 9.5 ポイント高い。

② 学校教育の場で力を入れるべきこと

問 36 今後男女平等の社会を実現するために、学校教育の場で特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○は 3 つ以内）



全体では「さまざまな教育活動を通して、性別ではなく、個性や能力を生かせる指導の充実」が 62.9％と最も高く、次に「授業や日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導を行う」が 43.0％で、「人権尊重の立場に立った教育の充実」が 42.2％である。

前回調査と比べると、あまり違いはみられない。

性別にみると、「さまざまな教育活動を通して、性別ではなく、個性や能力を生かせる指導の充実」の割合が女性では 67.1％で女性の方が 10.4 ポイント高い。